臺 灣 總 督 府

農 業 試 驗 所 彙 報

第百九十二號

害蟲防除劑の撒布と茶樹竝に製茶との關係(2)

臺灣總督府農業試驗所

昭 和 十 六 年 十 二 月

本報は彙報第百十四號に發表したる後、引續き試驗せる松脂合劑、デリス劑及見越試驗として石鹼液、除蟲菊加用石鹼液、デリス劑等を害蟲防除の目的を以て茶樹に撒布し、茶樹竝に製茶品質に及ぼす影響に關し試驗したる成績を記述せるものなり。一般當事者の參考として裨益するところ不尠と信じ、之を印刷に附す。

昭和十六年十月

臺灣總督府農業試驗所長
農學博士　澁谷紀三郎

臺灣總督府農業試驗所彙報　第百九十一號

害蟲防除劑の撒布と茶樹竝に製茶との關係 (2)

目　次

一 緒　言 …… 1
二 試驗防除劑の性狀 …… 1
甲 基本試驗 …… 4
(一) 試驗方法 …… 4
(1) 薬劑の用量及撒布回數 …… 4
(2) 各茶期に於ける薬劑撒布 …… 5
(3) 調査方法 …… 5
第一 松脂合劑 …… 6
A 春　茶 …… 6
B 夏　茶 …… 7
C 秋　茶 …… 9
D 小　結 …… 11
第二 デリス乾根液 …… 12
A 春　茶 …… 12
B 夏　茶 …… 14
C 秋　茶 …… 15
D 小　結 …… 16
第三 ネオトン …… 17
A 春　茶 …… 17
B 夏　茶 …… 18
C 秋　茶 …… 20
D 小　結 …… 22
第四 「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑 …… 23
A 春　茶 …… 23
B 夏　茶 …… 24
C 秋　茶 …… 26

D 小　　結……27 41.21.0
乙 見越試驗……28 41.22.0
(一) 試驗方法……28
(1) 撒布方法及藥劑の用量……28
(2) 調査方法……28
A 春　　茶……28
B 夏　　茶……32 41.23.0
C 秋　　茶……35 41.24.0
D 小　　結……38 41.25.0
附 錄 試驗期間の氣象狀況……41 41.26.0
A 昭和5年春茶試驗期間の氣象狀況……41
B 昭和6年春茶試驗期間の氣象狀況……42 41.27.0
C 昭和5年夏茶試驗期間の氣象狀況……44 41.28.0
D 昭和6年夏茶試驗期間の氣象狀況……45 41.29.0
E 昭和5年秋茶試驗期間の氣象狀況……46 41.30.0
F 昭和6年秋茶試驗期間の氣象狀況……47 41.31.0
G 昭和13年春茶試驗期間の氣象狀況……49 41.32.0
H 昭和14年春茶試驗期間の氣象狀況……49
I 昭和13年夏茶試驗期間の氣象狀況……50 41.33.0
J 昭和14年夏茶試驗期間の氣象狀況……51 41.34.0
K 昭和13年秋茶試驗期間の氣象狀況……52 41.35.0
L 昭和14年秋茶試驗期間の氣象狀況……53 41.36.0

害蟲防除劑の撒布と茶樹並に製茶との關係 (2)

故技師　谷 村 愛 之 助

技 手　楚 南 仁 博

一　緒　　言

余等は彙報第百十四號に、第一報として石鹸液、除蟲菊加用石鹸液，硫酸ニコチン、石灰硫黄合劑及石灰ボルドー液等の5種を害蟲防除の目的を以て、茶樹に撒布し、夫等が茶樹並に製茶品質に及ぼす影響に就いて報告せり。其後更に松脂合劑、デリス劑及見越試驗として茶芽の發育の狀況により摘採 5—10日前に石鹸液、除蟲菊加用石鹸液、ネオトン及デリス乾根等を撒布し、茶樹並に製茶品質に及ぼす影響に就いて試驗を行へり。仍て其結果を茲に報告せんとす。但し製茶中の藥劑の化學分析に關しては、後報する所あるべし。

本試驗の施行に關しては、病理昆蟲科長素木技師の指示によるもの多く、又三輪技師より種種便宜を受けたり。平鎭茶業試驗支所長樋口技師よりは本試驗施行に當り、多大の便宜と助言を受け、新井技師、元技手只左豐、元雇林清水、雇黃慶發の諸氏よりは種々援助を受けたり、茲に深厚なる謝意を表す。

二　試驗防除劑の性狀

1 松脂合劑　本劑は1887年に亞米利加合衆國カリフオルニヤ州に綿吹介殼蟲發生したるとき Albelt Koebel が其驅除に使用したるを嚆矢とし、我國にては松村松年博士が其著害蟲驅除全書に之を記載したるを初めとす。綿吹介殼蟲驅除劑として明治41年に素木技師によつて臺灣に於て使用され、其效果大なることを認められ、爾來介殼蟲驅除劑として本島に於て廣く使用せらるるに至れり、內地にては靜岡縣に綿吹介殼蟲發生するや、本劑使用され更に其後ルビー介殼蟲の驅除に特效あること認められ、賞用せらるるに至れり。

松脂はターペンチン (Turpentine) とも呼ばれ、松の樹皮又は材部の分泌物の凝固せるものにして、其形狀性質により3種に區別せらる。

1　生松脂(粗松脂)　松の生立木の外皮に傷を附し、分泌せしめたる樹脂にして、白黃色の半液體のもの。

2　松　脂(固松脂)　生松脂の乾燥せる塊狀のものにして、淡黃色乃至淡褐色を呈す，生松脂及松脂の用語に嚴密なる區別なき場合多し。

3　ロジン (Rosin)　チヤン、洋チヤン、コロホニー (Colophony) 又は精製松脂とも稱せられ、生松脂又は松脂を水蒸氣蒸餾すれば、テレペン油 (Terpene oil)、別名ターペチン油 (Turpentine oil)、松脂油を得、之を餾別したる殘渣にして、塵埃を除去したる黄色乃至褐色の透明のものなり。

松脂はロジン、テレビン油等を製造する主要原料にして、松脂そのままは農用薬劑及膏薬等に使用されるも、大部分はロジンとなして使用せらる。ロジンは製紙原料として大部分使用され、其他塗料、石鹼、印刷インキ、リノリウム等に使用せらる。テレビン油は塗料稀釋劑、靴墨の賦香、寫眞製版、合成樟腦及龍腦製造等に用ひらる。

松脂は主として支那より、ロジンは米國より多量に輸入せらる。松脂の主成分はピニン酸 (Pinic acid) 及シルヴィン酸 (Sylvic acid) の異性有機酸なりとして $HC_{20}H_{29}O_2$ なる分子式を與へ、他の學者は之に反しアビエチン酸 (Abietic acid) なりとして $C_{44}H_{64}O_5$ なる分子式を與へ居れり。

松脂をアルカリ溶液にて處理すれば、中和して松脂石鹼卽ち松脂合劑となる。松脂は純粹でなき故、產地又は品質により苛性曹達又は苛性加里による鹼化度を異にす。

田崎佐市氏によれば、松脂及魚油の鹼化價及アルカリ所要量は次の如し。

油　脂　名	鹼　化　價	油脂100を鹼化するに要するアルカリ量(苛性曹達)
洋チヤン	18.3	13.1
普通松脂	19.4	13.9
生松脂	16.6	11.9
鰊　油	19.0—19.2	13.9
鰮　油	19.5—19.6	14.0

中江大部氏(石鹼製造化學、1931 p. 93)によれば次の如し。

油　脂　名	鹼　化　價	油脂100を鹼化するに要するアルカリ(量苛性曹達)
魚　油	179—194	12.8—13.9
鯨　油	188—194	13.4—13.9
樹　脂	170—193	12.1—13.8

松脂合劑の松脂をアルカリに中和せしめて松脂石鹼を得るには松脂100gに對し苛性曹達13—14g にて鹼化し、剩餘のアルカリは遊離アルカリとして殘る。而して殺蟲力と薬害との關係は正比例し、遊離アルカリ多ければ殺蟲力強く、且つ薬害多く、少なければ之に反す。

2　デリス及魚藤　デリス(Derris spp.)及魚藤(ドクブジ)(Millettia taiwaniana HAYATA)

の有效成分はロテノーン(Rotenon)にして、Rotenon なる名稱は永井一雄博士が明治35年 (1902年) に本島產魚藤の硏究により魚藤の土名、露藤(ローテン)より誘導して化學名 Rotenon と命名せられたるものたり。デリス屬 (Derris) と魚藤屬 (Millettia) とは植物學上甚だ類似のものにして其區別は次の如し。

Derris　果實は纖維質にして扁平、裂開せず。

Millettia 果實は木質にして丸く、裂開す。

尙ほ此兩者の簡單にして素人の區別法は次の如し。

デリス　葉柄の上側に縱溝あり。

魚藤　葉柄の上側に縱溝を缺く。

以上の方法によつて圃場に於て容易に區別することを得。

本島に於けるデリスは這トバ(Derris elliptica BENTH.)、中トバ (D. elliptica BENTH. var.) 立トバ (D. malaccensis PRAIN) の2種1變種栽培せらる。デリスの和名を內地にてビヨウリツフヂ(D. elliptica)(早田文藏博士、臺灣植物目錄、18頁、大正6年) を用ひる人あるも佐々木舜一氏の談によれば、之は誤りにしてヒロハノシヒノキカヅラ (D. laxiflora BENTH.) に訂正すべきものなりと云ふ。故に本島にはデリス (D. elliptica) は自生せざるものなり。

魚藤は本島の山野に自生し、品種多し。タイヤル蕃は之をトバと呼び、南洋に於ける馬來語の Derris に對するトバと同義なり。本島の蕃人は普通、優良種、普通種、下等種の3品種又は上等種、下等種の2品種に區別し、下等種は毒分弱きか又は毒なしと稱す。又本島人は靑心種(優良種)と紅心種(下等種)とに區別するものあり、稻村時衛氏 (臺灣の山林、82號、昭和8年2月、3—30頁) に據れば、優良品種として扒仔葉(バラバ)、牛舌(大葉靑心種、潮葉)。中等品種 小葉靑心種(細牛舌)。下等品種　濃紅心種(粉藤)、龍眼葉(淡紅心種)の5品種ありて、下等品の2品種は採集又は賣買せられざる由。

武居三吉、宮島武郎、正木榮太郎 (デリス根の有效成分定量に關する硏究第1報、農業及園藝第10卷第5號1159—1176頁、昭和10年)によればデリス根中の有效成分は Rotenon($C_{23}H_{22}O_6$) Deguelin ($C_{23}H_{22}O_6$), Toxicarol ($C_{23}H_{22}O_7$) の3よりなり、DeguelinはRotenon の$^1/_2$の殺蟲力を有すと云ふ。

本島にて栽培のデリス及魚藤の有效成分は石丸謙氏(農業試驗所報告第73號、昭和14年9月)に據れば次の如し。

品　種		水　分	Ether 抽出物	結晶 Rotenon	樹　脂	Deguelin	全Rotenon	有效成分總量
這トバ	平均	9.61	18.49	7.56	6.09	3.29	8.07	10.68
	最高	11.40	25.02	12.12	8.42	4.58	15.00	16.18
	最低	7.66	10.82	3.62	3.39	2.15	4.89	5.99

品種		水分	Ether抽出物	結晶Rotenon	樹脂	Degueliu	全Rotenon	有效成分總量
中トバ	平均	9.11	18.14	7.07	6.29	2.97	9.04	10.64
	最高	10.85	25.46	11.20	10.26	4.18	14.74	16.82
	最低	6.15	8.09	2.12	3.86	1.72	2.51	3.37
立トバ		7.50	24.30	0	15.42	0.92	2.96	5.92
魚藤※	最高	17.03	3.73	0.61	2.78	0.728	0.22	0.584
	最低	10.82	1.61	0	1.23	0.09	0.20	0.245

但水分は風乾燥物%

※魚藤は農業試驗所構内栽培のものにして、成分は未發表なるも、特に石丸氏の厚意により爰に掲載することを得たり。

3 ネオトン 財團法人理化學研究所の創造品にして、デリスの有效成分ロテノーンを抽出して1種の油類と化合せしめたる「糊狀」又は「液狀」のものにして大阪市西區土佐堀通一丁目三十四番、日本農藥株式會社の販賣品なり。

4 かんこう殺蟲劑 元臺灣總督府農林專門學校講師井街　顯氏の創造品にして、デリスを粉末とし、之にサポニン（Sapouine）を多量に含有する植物を粉末として混合したるものにして、撒布液に石鹼加用の必要なく、又植物性サポニンの混合なるを以てアルカリ性石鹼と混合したるデリス石鹼の如く化學變性を起さざる特徴を有すと謂ふ。京都市下京區外吉祥院西ノ内町一五、京都農藥研究所の販賣品なり。

5 トバ殺蟲劑 デリス粉に石灰粉を混合したる粉末にして熊本縣宇土郡宇土驛前、南國物產商會の販賣品なり。强力殺蟲劑デリス又は强力デリス粉末、コロリ殺蟲劑の別名を有す。

6 デリス乾根 當農業試驗所栽培のものにして收穫後風乾したるものなり、使用の際は前日より淸水に浸漬し、翌日取出して之を石にて打ち碎き其樹液を水中にて揉み出し、後木綿布にて濾過して滓渣を除去して使用す、デリス生根重量100のものを風乾すれば約55の重量に減少す。

甲　基　本　試　驗

(一) 試驗方法

試驗區を平鎭茶業試驗支所第一圃場(第18. 19. 48及77番)の 28.3a とし、供試茶樹明治44年植付昭和五年樹齡20年なる靑心種を使用す。各區を6畦茶欉60欉、石鹼はアデカ農藝石鹼を使用し各60欉に對し 40l の藥液を撒布せり。

(1) 藥劑の用量及撒布回數

第一　松脂合劑

藥量　松脂 1.65kg 苛性曹達（工業用）450g 魚油 300cc 水 60l の割合の溶液を20倍の水に稀釋して撒布す。

第一區　1 回撒布

第二區　2 回撒布　1 回目は第一區と同日、2 回目は其撒布　1 週間後。

第三區　1 回撒布　第二區　2 回目と同日。

最後の撒布3週間後に茶葉の摘採を行ふ。

第二　デリス乾根液

第一區　1 回撒布　デリス乾根 80g 石鹼 100g 水 20l

撒布3週間後に第1回摘採を行ひ、更に茶芽の伸長を待ちて第2回摘採を行ふ。

第二區　標準區として無撒布。

第三　ネオトン　(糊狀)

第一區　1 回撒布　ネオトン 37.5g 石鹼 80g 水 30l (ネオトン 800 倍液)。

第二區　2 回撒布　1 回目は第一區と同日　2 回目は其撒布　1 週間後。

第三區　1 回撒布　第二區 2 回目と同日。

第四區　1 回撒布　ネオトン 30g 石鹼 80g 水 30l (ネオトン1000倍液)。

第五區　2 回撒布　1 回目は第四區と同日　2 回目は其撒布　1 週間後。

第六區　1 回撒布　第五區 2 回目と同日。

最後の撒布3週間後に茶葉の摘採を行ふ。

第四　トバ殺蟲劑(デリス粉)

第一區　1 回撒布　トバ殺蟲劑 30g 石鹼 80g 水20l

第二區　2 回撒布　1 回目は第一區と同日　2 回目は其撒布1週間後。

第三區　1 回撒布　第二區 2 回目と同日。

第四區　1 回撒布　トバ殺蟲劑 60g 石鹼 80g 水 20l

第五區　2 回撒布　1 回目は第四區と同日　2 回目は其撒布1週間後。

最後の撒布3週間後に茶葉の摘採を行ふ。

(2) 各茶季に於ける藥劑撒布

春茶季　前記各區の最後の撒布日が春期摘採の3週間以前なる樣第1回撒布を行ふ。

夏茶季　春茶摘採後直ちに第1回撒布を行ふ。

秋茶季　夏茶摘採後直ちに第1回撒布を行ふ。

(3) 調査方法

1　防除劑撒布後藥害の有無。

2　圃場に於て摘採當日に於ける茶芽に藥劑附着の狀況及程度。

3　製茶作業中に於ける藥劑臭の有無。

4 製品中に藥劑臭氣の有無。

5 製品中に藥劑附着の有無。

6 防除劑撒布當日より摘採當日迄の氣象を當支所に於て觀測すること。

7 撒布の當日及撒布以後の天候日照(曇)降雨の有無(雨量及時間)を記錄すること。

8 撒布より摘採迄の日數。

9 撒布後第1回及最多降雨の日及雨量。

10 製茶品質の採點は形狀30、色澤20、水色20及香味30を滿點とし合計點數により等級を定むるものとす。

上記の調査項目中製茶に關しては摘採葉を標準製茶法により烏龍茶に製造するものとす。

製茶は荒茶の儘之を審査し且化學分折の試料となす。

尙製茶品質を示す等級並に其略號は本試驗報告(1)卽ち彙報第百十四號(昭和10年12月)第6頁を參照せられたし。

第一 松 脂 合 劑

A 春 茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象要項を表記すれば次の如し。

第一表 松脂合劑撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	區名	撒布 回數	撒布 月日	摘採 月日	經過 日數	第一回降雨 撒布後	第一回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和5年	第一區	1	4月 5日			當日	1.5					夜間降雨
	第二區	2	4月 5日									
	第三區	1	4月12日 4月12日									
昭和6年	第一區	1	3月26日	5月 7日	42	1	0.3	20	177.3	30	773.8	曇、午後一時より濃霧夜中降雨
	第二區	2	3月26日 4月 4日	5月 7日	42 33							
	第三區	1	4月 4日	5月 7日	33	1	10.0	11	177.3	22	695.2	

昭和5年度は摘採せざるを以て之を略す。

昭和6年度に於ては第一區及第二區第1回撒布は3月26日に藥劑を撒布し、翌日 0.3mm の降雨あり。20日目に 177.3mm の最多降雨ありて、5月7日に摘採する迄に降雨日數30日、降雨量 773.3mm なり。

第二區第2回撒布及三區は前者より9日後卽ち4月4日藥劑を撒布し、翌日10mm の降雨あり。11日目に 177.3mm の最多降雨ありて、5月7日に摘採する迄に降雨日數22日、降雨量695.2mm なり。

春茶に於ける松脂合劑と茶樹並に生葉との關係試驗成績

昭和5年度

藥劑撒布後に於ける藥害

藥劑撒布後第一區にて 3.3% 第二區第1回撒布にて 4% の藥害による葉燒を生したるも、第二區第2回撒布及第三區にありては茶葉成長し多少硬化し抵抗力を有するに至りし爲め其害小なり(藥害調査方法として2欉を2葉掛にて摘採し、藥害のものを選出して步合を出せり)。

昭和6年度

藥劑撒布後に於ける藥害

前年よりも新葉の成長したる後撒布せる爲め藥害を認めず。

摘採時に於ける觀察

摘採當時芽に藥劑の附着並に生葉に藥劑の臭氣を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

各工程に於て異狀を認めず。

春茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第二表 春茶に於ける松脂合劑と製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和6年	第一區	17.8	14.0	13.0	17.0	61.8	Sup. up		なし
	第二區	17.0	13.7	14.5	17.2	62.4	Sup. up		なし
	第三區	18.0	14.2	15.0	17.5	64.7	Sup. F.		なし

松脂 1650g 苛性曹達(工業用)450g 魚油 300cc 水 60l の割合を以て調劑したる松脂合劑を原液とし、之を20倍の水に稀釋して撒布する場合は昭和5年には新葉に藥害を認めたるも、6年にては之を認めず、降雨22回 695.2mm の場合の33日後又は降雨30回 773.8mm の場合の42日後に茶芽を摘採し製茶するに於ては製茶に藥劑の影響を認めず。

B 夏 茶

藥劑撒布より摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第三表 松脂合劑撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	區名	撒布 回數	撒布 月日	摘採 月日	經過 日數	第一回降雨 撒布後	第一回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和5年	第一區	1	5月16日	6月20日	35	7	6.6	20	74.5	11	255.1	晴
	第二區	2	5月16日 5月23日	6月20日	35 28							
	第三區	1	5月23日	6月20日	28	當日	6.6	13	74.5	11	255.1	晴夜間降雨

年度	區名	撒布		摘採	經過	第一回降雨		最多降雨		摘採當日迄の降雨		撒布當日同作業後の天氣
		回數	月日	月日	日數	撒布後	量	撒布後	量	日數	量	
昭和6年	第一區	1	5月19日	6月15日	日 27	日 3	mm 14.2	日 22	mm 93.5	日 12	mm 340.0	晴
	第二區	2	5月19日 5月23日	6月15日	27 23							
	第三區	1	5月23日	6月15日	23	1	22.4	18	93.5	11	325.8	晴

昭和5年度に於ては第一區及第二區第1回は5月16日に薬劑を撒布し、7日後に6.6mmの降雨あり、20日後に74.5mmの最多降雨ありて6月20日に摘採する迄の降雨日數11日にして降雨量255.1mmなり。

第二區第2回及第三區は7日後即5月23日に薬劑を撒布し、其夜6.6mmの降雨あり。13日後に74.5mmの最多降雨ありて6月20日に摘採する迄の降雨日數11日、降雨量255.1mmなり。

昭和6年度にありては第一區及第二區第1回は5月19日に薬劑を撒布し、3日後に14.2mmの降雨あり、22日後に93.5mmの最多降雨ありて6月15日に摘採する迄には降雨日數12日、降雨量340.0mmなり。

第二區第2回及第三區は4日後即ち5月23日に薬劑を撒布し、翌日22.4mmの降雨あり、18日後に93.5mmの最多降雨ありて6月15日に摘採する迄の降雨日數11日、降雨量325.8mmなり。

昭和6年度の降雨量は昭和5年度よりも少しく多し。

夏茶に於ける松脂合劑と茶樹並に生葉との關係試驗成績

昭和5年度

薬劑撒布後に於ける薬害

第一區及第二區第1回撒布は茶葉幼小の爲め著しき薬害による葉燒を現はしたるも、第二區第2回撒布及第三區にありては茶葉成長し多少硬化し抵抗力を有するに至りし爲其害小なり。

摘採時に於ける觀察

摘採當時芽に薬劑の附着並に生葉に薬劑の臭氣を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

各工程中に異狀なし。

昭和6年度

薬劑撒布後に於ける薬害

各區共新葉に薬害による葉燒を少しく認めたり。

摘採時に於ける觀察

摘採當時芽に薬劑の附着並に生葉に薬劑の臭氣を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

各工程中に異狀なし。

夏茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第四表　夏茶に於ける松脂合劑と製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす薬劑の影響
昭和5年	第一區	17.8	14.3	14.0	19.5	65.6	Sup. F.		なし
	第二區	16.5	13.5	15.7	18.3	64.0	Sup. up		なし
	第三區	16.7	13.5	16.0	18.8	65.0	Sup. F.		なし
昭和6年	第一區	21.3	16.3	16.0	21.0	74.6	F. up	澁味强し	なし
	第二區	21.5	16.0	15.0	20.8	73.3	Full. F.		なし
	第三區	21.0	15.3	16.5	20.5	73.3	Full. F.		なし

製茶品質に就ては昭和6年度は前年度に比し形狀色澤其他總て優り上位を占むるも薬劑の影響を認むべきものなし。

C　秋　　茶

薬劑撒布より摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第五表　松脂合劑撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	區名	撒布		摘採	經過	第一回降雨		最多降雨		摘採當日迄の降雨		撒布當日同作業後の天氣
		回數	月日	月日	日數	撒布後	量	撒布後	量	日數	量	
昭和5年	第一區	1	8月12日	9月16日	日 35	日 3	mm 2.5	日 10	mm 55.0	日 7	mm 106.4	晴
	第二區	2	8月12日 8月19日	9月16日	35 28							
	第三區	1	8月19日	9月16日	28	3	55.0	3	55.0	6	103.9	晴
昭和6年	第一區	1	8月27日	9月8日	12	當日	2.8	7	10.8	5	23.0	晴、夜間降雨
	第二區	2	8月27日 9月3日	9月8日	12 5							
	第三區	1	9月3日	9月8日	5	當日	10.8	當日	10.8	3	18.8	晴、午後3時より夕立

昭和5年度第一區及第二區第1回は8月12日に薬劑を撒布し、3日後に2.5mmの降雨あり、10日後に55.0mmの最多降雨ありて9月16日に摘採する迄の降雨日數7日にして總雨量106.4mmなり。

第二區第2回及第三區は7日後の8月19日に薬劑を撒布し、3日後に55.0mmの降雨あり。而して此降雨を最多降雨となす、9月16日に摘採する迄の降雨日數6日、降雨量103.9mmを算せり。

昭和6年度第一區及第二區第1回は8月27日に薬劑を撒布し、其夜に2.8mmの降雨あり、7日後に10.8mmの最多降雨を見たり。9月8日の摘採日迄には降雨日數5日、雨量23.0mmを

算したり。

第二區第2回及第三區は7日後の9月3日に藥劑を撒布し、當日午後3時頃より10.8mmの驟雨あり、且之を以て最多降雨となす、9月8日の摘採日迄の降雨日數3日、雨量18.8mmなり。

秋茶に於ける松脂合劑撒布と茶樹竝に生葉との關係試驗成績

昭和5年度

藥劑撒布後に於ける觀察

第一區及第二區の新葉に稍藥害を認めたり。

摘採時に於ける觀察

摘採當時芽に藥劑の附着竝に生葉に藥劑の臭氣を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

各工程中に異狀なし。

昭和6年度

藥劑撒布後に於ける藥害

各區共新葉に藥害を起せり。

摘採時に於ける觀察

摘採當時芽に藥劑の附着竝に生葉に藥劑の臭氣を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

各工程中に異狀なし。

秋茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第六表　秋茶に於ける松脂合劑と製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和5年	第一區	14.5	11.0	12.5	14.0	52.0	Good up		なし
	第二區	15.5	12.0	14.0	14.2	55.7	On Sup.		なし
	第三區	14.7	11.3	14.5	14.3	54.8	On Sup.		なし
昭和6年 第一回摘採	第一區	17.3	14.3	16.2	15.8	63.6	Sup. up		なし
	第二區	15.0	13.0	16.0	16.0	60.0	Ful. Sup.		なし
	第三區	16.0	13.2	14.5	16.3	60.0	Ful. Sup.	苦くて澁し	藥劑臭あり

昭和5年度に於ては製茶品質に何等異狀なかりしも、昭和6年度第三區に於て苦味及藥劑臭あり。昭和6年度は各區共藥劑撒布の當夜降雨あり、第一區は藥劑撒布後12日、其他にありては僅5日にして摘採せり、然るに2回撒布の第二區に製茶品質に何等影響を見ざりしは藥劑撒布當夜の降雨によるならんか。

第二回及第三回の摘採

第七表　松脂合劑撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

（昭和6年度第2—3回摘採）

摘採回數	區名	撒布 回數	撒布 月日	摘採 月日	經過日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日作業後の天氣
					日		mm	日	mm	日	mm	
第2回	第一區	1	8月27日	9月18日	22	當日	2.8	17	82.1	7	132.9	晴、夜間降雨
	第二區	2	8月27日 9月3日	9月18日	22 15			17 10	82.1 82.1	7 6	132.9 131.5	
	第三區	1	9月3日	9月18日	15	當日	10.8	10	82.1	6	131.5	晴、午後3時より夕立
第3回	第一區	1	8月27日	9月30日	34	當日	2.8	17	82.1	11	204.4	晴、夜間降雨
	第二區	2	8月27日 9月3日	9月30日	34 27			17 10	82.1 82.1	11 10	204.4 203.0	
	第三區	1	9月3日	9月30日	27	當日	10.8	10	82.1	10	203.0	晴、午後3時より夕立

第2回摘採は第1回摘採より10日後の9月18日に行ひ、最多降雨は第一區にて藥劑撒布後17日、第三區にて10日後にして共に82.1mmなり、降雨日數第一區にて7日雨量132.9mm第三區にて6日雨量131.5mmなり。

第三回摘採は第1回の23日後、第2回の12日後の9月30日に行ひ、最多降雨は第2回摘採と同樣にして、降雨日數第一區にて11日雨量204.4mm第二區にて10日雨量203.4mmなり。

第八表　秋茶に於ける松脂合劑と製茶品質との關係試驗

（昭和6年度第2—3回摘採）

摘採回數	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
第2回	第一區	17.2	13.5	15.8	17.7	64.2	Sup. F.		なし
	第二區	18.5	14.5	16.0	18.0	67.0	On F.		なし
	第三區	17.5	13.7	17.0	17.5	65.7	Sup. F.	苦味强し	藥劑臭あり
第3回	第一區	17.0	13.5	15.0	17.0	62.5	Ful. Sup.		なし
	第二區	18.5	14.5	15.7	17.3	66.0	Sup. F.		なし
	第三區	18.0	14.3	15.2	16.7	64.2	Sup. up		なし

昭和6年度第2回摘採の第一區及第二區は第1回摘採と同樣製茶品質に何等異狀を認めざりしも第三區（經過日數15日）にては依然苦味强く且つ藥臭あり。第3回摘採の同區（經過日數27日）にて初めて何等異狀を認めざるに至れり。

D　小　結

春　茶

1 松脂 1.65kg 苛性曹達（工業用）450g 魚油 300cc 水 60l の割合の溶液を20倍の水に稀釋し

せしに昭和5年度には新葉に第一區及第二區第1回撒布にて藥害による葉燒を生じたるも、昭和6年度にて藥害を認めざるは新葉が前年よりも成長したるによるものなり。

2 既定濃度の藥劑撒布後降雨回數22回、總雨量 695.2mm 以上の場合にて33日後に茶芽を摘採製茶せし製茶の品質に藥劑の影響を認めず。

夏　　茶

1 兩年共藥劑撒布後新葉に藥害による葉燒を生ぜり。

2 既定濃度の藥劑撒布後降雨回數11回、總雨量325.8mm以上の場合にて23日後に茶芽を摘採製茶せしに製茶に藥劑の影響を認めず。

3 昭和6年に製茶品質優れるは氣候の影響と認め得るも藥劑の影響を認む可きものなし。

秋　　茶

1 昭和5年度は第一區及第二區に、昭和6年度は各區に藥劑撒布後新葉に藥害による葉燒を生ぜり。

2 既定濃度の藥劑撒布後降雨回數10回、總雨量203.0mm以上の場合にて27日後に茶芽を摘採製茶せしに製茶の品質に藥劑の影響を認めず。降雨回數3回、總雨量 10.8mm 撒布當日 10.8mm の降雨ありたる場合5日後に又降雨回數6回、總雨量131.5mmありたる場合15日後に摘採製茶せし製茶に藥臭を有するものあり。

概　　評

既定濃度の松脂合劑の撒布は、茶葉の摘採期間にありては新葉に葉燒を生ぜしめ且又藥劑撒布23日後にあらざれば藥臭を來す場合あるを以て、茶期終了後に行ふを良しとするも、害蟲發生の關係上猶豫能はざるときは、撒布茶欉に標記を附し、撒布23日以後に之を摘採製茶するを良しとす。

第二　デリス乾根液

A 春　　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象要項を表記すれば次に示す如し。

第一〇表　デリス乾根液撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	摘採	區名	撒布 月日	摘採 月日	經過 日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和13年	第1回摘採	第一區	4月 4日	4月22日	18	6	6.7	16	84.2	7	152.2	晴
		第二區		4月22日								無撒布
	第2回摘採	第一區	4月 4日	4月26日	22	6	6.7	16	84.2	11	234.6	
		第二區		4月26日								無撒布
昭和14年	第1回摘採	第一區	4月14日	5月 2日	18	當日	1.2	16	54.0	17	275.1	曇、夜間降雨
		第二區		5月 2日								無撒布
	第2回摘採	第一區	4月14日	5月 8日	24	當日	1.2	16	54.0	20	308.5	
		第二區		5月 8日								無撒布

昭和13年度は4月4日に藥劑を撒布し、6日後に 6.7mm の降雨あり、16日後に 84.2mm の最多降雨ありて4月22日の第1回摘採する迄に降雨日數7日にして降雨量 152.2mm なり。

第2回摘採は4月26日にして最多降雨量は第1回摘採と同じく、降雨日數は11日にして總雨量 234.6mm なり。

昭和14年度は4月14日に藥劑を撒布し、共夜 1.2mm の降雨あり、16日後に 54.0mm の最多降雨ありて5月2日の第1回摘採する迄に降雨日數17日、總雨量 275.1mm なり。

第2回摘採は5月8日にして最多降雨量は第1回摘採と同じく、降雨日數は20日にして總雨量 308.5mm なり。

春茶に於けるデリス乾根液撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

兩年共に摘採時及製造作業中に異狀なく茶樹に藥害を認めず。

春茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第一一表　春茶に於けるデリス乾根液と製茶品質との關係試驗成績

年度	摘採	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	製品に及ぼす藥劑の影響	備考
昭和13年	第1回摘採	第一區	13.7	20.1	13.7	22.0	69 5	Fine	なし	
		第二區	20.1	13.7	13.4	21.5	68.7	Fine	なし	無撒布
	第2回摘採	第一區	19.0	13.0	14.5	21.0	67.5	Fine	なし	
		第二區	19.5	13.1	14.8	21.3	68.7	On Fine	なし	無撒布
昭和14年	第1回摘採	第一區	20.0	14.5	13.0	21.0	68.5	On Fine	なし	
		第二區	19.0	13.5	13.2	20.0	65.7	Sup. Fine	なし	無撒布
	第2回摘採	第一區	18.7	13.5	12.5	21.0	65.7	Sup. Fine	なし	
		第二區	18.5	13.5	11.0	20.0	63.0	Sup. up	なし	無撒布

上表に示す如く兩年共製茶品質に大差なく且又第1回及第2回摘採に於ても製茶品質に藥劑の及ぼす影響無し。

第二區は無撒布、第一區はデリス乾根 60g 石鹼 100g 水 20l の割合の溶液を撒布し、降雨7回 152.2mm 以上の時18日後に茶芽を摘採せるに茶樹並に製茶に何等の影響を認めざりき。

B 夏　　　　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第一二表　デリス乾根液撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度及區名	撒布 月日	摘採 月日	經過 日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
			日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和13年 第1回摘採 第一區	5月28日	6月16日	19	當日	1.8	19	11.0	3	14.9	晴、午後5時驟雨
昭和13年 第1回摘採 第二區		6月16日								無撒布
昭和13年 第2回摘採 第一區	5月28日	6日21日	24	當日	1.8	19	11.0	4	14.9	
昭和13年 第2回摘採 第二區		6月21日								無撒布
昭和14年 第1回摘採 第一區	6月 1日	6月22日	21	3	15.5	9	97.5	10	345.5	晴
昭和14年 第1回摘採 第二區		6月22日								無撒布
昭和14年 第2回摘採 第一區	6月 1日	6日29日	28	3	15.5	9	97.5	10	345.5	
昭和14年 第2回摘採 第二區		6月29日								無撒布

昭和13年度は5月28日に藥劑を撒布し、其午後5時頃 1.8mm の驟雨あり、19日後に11.0mm の最多降雨ありて6月16日の第1回摘採する迄に降雨日數3日、總雨量 14.9mm なり。

第2回摘採は6月21日にして最多降雨は第1回摘採と同日にして降雨日數4日にして總雨量は第1回摘採と同量の 14.9mm なり。

昭和14年度は6月1日に藥劑を撒布し、3日後に 15.5mm の降雨あり、9日後の 97.5mmを最多降雨とし6月22日の第1回摘採する迄に降雨日數10日にして總雨量 345.5mm なり。

第2回摘採は6月29日にして最多降雨は第1回摘採と同日にして、降雨日數及總雨量も前回と同じ。

夏茶に於けるデリス乾根液撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

兩年共に摘採時及製茶作業中に異狀なく茶樹に藥害を認めず。

夏茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第一三表　夏茶に於けるデリス乾根液と製茶品質との關係試驗成績

年度及區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	製品に及ぼす藥劑の影響	備考
昭和13年 第1回摘採 第一區	20.0	14.5	13.5	17.0	65.0	Sup. Fine	なし	
昭和13年 第1回摘採 第二區	21.5	15.7	14.0	19.3	70.5	Fine	なし	無撒布
昭和13年 第2回摘採 第一區	19.0	13.0	15.0	20.5	67.5	On Fine	なし	
昭和13年 第2回摘採 第二區	22.0	15.5	14.0	22.0	73.5	On Fine	なし	無撒布

年度及區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	製品に及ぼす藥劑の影響	備考
昭和14年 第1回摘採 第一區	22.0	15.5	15.5	22.5	75.5	Fine up	なし	
昭和14年 第1回摘採 第二區	19.8	13.7	13.8	20.2	67.5	On Fine	なし	無撒布
昭和14年 第2回摘採 第一區	22.5	15.8	14.0	21.5	73.8	Full Fine	なし	
昭和14年 第2回摘採 第二區	19.0	13.7	13.8	20.5	67.0	On Fine	なし	無撒布

上表に示す如く兩年共製茶品質に大差なく且又第1回及第2回摘採共に製茶品質に藥劑の及ぼす影響無し。

本試驗に於けるが如き濃度のデリス乾根液を夏茶季に茶樹に撒布するに、茶芽摘採日迄に降雨3回 14.9mm にて19日を經過すれば、製茶並に茶樹に藥劑の影響を認めず。

C 秋　　　　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第一四表　デリス乾根液撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度及區名	撒布 月日	摘採 月日	經過 日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
			日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和13年 第1回摘採 第一區	8月 8日	8月27日	19	2	2.2	11	4.0	8	13.6	晴
昭和13年 第1回摘採 第二區		8月27日								無撒布
昭和13年 第2回摘採 第一區	8月 8日	9月 7日	30	2	2.2	11	4.0	10	15.1	
昭和13年 第2回摘採 第二區		9月 7日								無撒布
昭和14年 第1回摘採 第一區	8月23日	9月12日	20	4	4.9	17	48.1	9	86.8	晴
昭和14年 第1回摘採 第二區		9月12日								無撒布
昭和14年 第2回摘採 第一區	8月23日	9日20日	28	4	4.9	17	48.1	11	92.1	
昭和14年 第2回摘採 第二區		9月20日								無撒布

昭和13年度は8月8日に藥劑を撒布し、2日後に 2.2mm の降雨あり、11日後に 4.0mm の最多降雨ありて8月27日の第1回摘採する迄に降雨日數8日にして總降雨量 13.6mm なり。

第2回摘採は9月7日にして最多降雨は前回と同樣にして降雨日數10日、總降雨量 15.1mm なり。

昭和14年度は8月23日に藥劑を撒布し、4日後に 4.9mm の降雨あり、17日後に 48.1mm の最多降雨ありて9月12日の第1回摘採までに降雨日數9 日にして總降雨量 86.8mm なり。

第2回摘採は9月20日にして最多降雨は前回と同じく、降雨日數11日、總降雨量 92.1mm なり。

秋茶に於けるデリス乾根液撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

兩年度に摘採時及製茶作業中に異狀なく茶樹に藥害を認めず。

秋茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第一五表　秋茶に於けるデリス乾根液と製茶品質との關係試驗成績

年度	摘採	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	製品に及ぼす藥劑の影響	備考
昭和13年	第1回摘採	第一區	18.0	13.0	14.0	19.0	64.0	Sup. up	なし	
		第二區	22.0	15.8	14.5	20.5	72.8	Full Fine	〃	無撒布
	第2回摘採	第一區	21.0	15.0	14.0	19.5	69.5	Fine	〃	
		第二區	22.0	13.0	14.3	20.5	69.8	Fine	〃	無撒布
昭和14年	第1回摘採	第一區	20.0	14.0	14.0	20.0	68.0	On Fine	〃	
		第二區	19.8	13.7	13.8	20.2	67.5	On Fine	〃	無撒布
	第2回摘採	第一區	19.5	13.5	14.0	20.3	67.3	On Fine	〃	
		第二區	19.0	13.7	13.8	20.5	67.0	On Fine	〃	無撒布

上表に示す如く兩年共製茶品質に大差なく且又第1回及第2回摘採に於ても製茶品質に藥劑の及ぼす影響無し。

本試驗に於けるが如き濃度のデリス乾根液を秋茶季に茶樹に撒布するに、茶芽摘採日迄に降雨8回 13.6mm 以上にて19日を經過すれば製茶並に茶樹に藥劑の影響を認めず。

D　小　　結

春　　茶

1 デリス乾根 60g 石鹼 100g 水 20l の割合の溶液を撒布せしに茶芽に藥害を認めず。

2 既定濃度の藥劑撒布後降雨回數7回、總雨量 152.2mm 以上の場合18日後に茶芽を摘採製茶せし製茶の品質に藥劑の影響を認めず。

夏　　茶

1 兩年共藥劑撒布後茶芽に藥害を認めず。

2 既定濃度の藥劑撒布後降雨回數3回にして總降雨量 14.9mm 以上の場合にて19日後に茶芽を摘採製茶せし製茶品質に藥劑の影響を認めず。

秋　　茶

1 兩年共藥劑撒布後茶芽に藥害を認めず。

2 既定濃度の藥劑撒布後降雨回數8回にして總降雨量 13.6mm 以上の場合19日後に茶芽を摘採製茶せし製茶品質に藥劑の影響を認めず。

第三　ネ　オ　ト　ン

A　春　　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象要項を表記すれば次に示す如し。

第一七表　ネオトン撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	區名	撒布月日 回數	撒布月日 月日	摘採 月日	經過 日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和5年	第一區	1	4月 5日	不摘採	—	—	—	—	—	—	—	
	第二區	2	4月 5日 4月12日	〃	—	—	—	—	—	—	—	
	第三區	1	4月12日	〃	—	—	—	—	—	—	—	
	第四區	1	4月 5日	〃	—	—	—	—	—	—	—	
	第五區	2	4月 5日 4月12日	〃	—	—	—	—	—	—	—	
	第六區	1	4月12日	〃	—	—	—	—	—	—	—	
昭和6年	第一區	1	3月26日	5月 7日	42	1	0.3	20	177.3	30	773.8	曇、午後1時より濃霧
	第二區	2	3月26日 4月 4日	5月 7日	42 33	1 1	0.3 10.0	20 11	177.3 177.3	30	773.8	〃
	第三區	1	4月 4日	5月 7日	33	1	10.0	11	177.3	22	695.2	晴
	第四區	1	3月26日	5月 7日	42	1	0.3	20	177.3	30	773.8	曇、午後1時より濃霧
	第五區	2	3月26日 4月 4日	5月 7日	42 33	1 1	0.3 10.0	20 11	177.3 177.3	30	773.8	〃
	第六區	1	4月 4日	5月 7日	33	1	10.0	11	177.3	22	695.2	晴

昭和5年度は藥劑を撒布したるも摘採試驗を行はず。

昭和6年度第一區及第四區は1回撒布にして3月26日に藥劑を撒布し、當日 0.3mm の降雨あり、20日後に 177.3mm の最多降雨ありて5月7日の摘採する迄に降雨日數30日にして降雨量 773.8mm なり。

第二區及第五區は2回撒布にして第1回は第一區と同日、第2回は第1回撒布後10日に藥劑を撒布せり、第1回撒布は其日 0.3mm の降雨あり、第2回撒布も當日 10.0mm の降雨ありたり、最多降雨は第1回撒布より起算して20日後、第2回撒布より10日後に 177.3mm あり、5月7日に摘採するまでに降雨日數30日にして降雨量 773.8mm なり。

第三區及第六區は1回撒布にして其日 0.3mm の降雨ありて20日後に 177.3mm の最多降雨あり、5月7日の摘採までに降雨日數30日、降雨量 773.8mm なり。

春茶に於けるネオトン撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

藥劑撒布後及摘採時に於ける觀察

兩年共に藥劑撒布後に藥害を、摘採時に異狀を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

昭和５年度夏茶に於て釜炒中に第一區及第五區に異臭あり。

春茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第一八表　春茶に於けるネオトンと製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和６年	第一區	18.3	15.0	16.0	17.3	66.6	On sup.		なし
	第二區	17.0	13.8	15.2	16.8	62.8	Sup. up		なし
	第三區	18.5	15.0	15.3	17.3	66.1	On F.		なし
	第四區	17.3	14.3	14.3	17.0	62.9	Sup. up		なし
	第五區	18.0	15.3	15.5	17.2	66.0	On F.		なし
	第六區	17.5	14.8	14.7	17.0	64.0	Sup. up		なし

第二區及第五區は藥劑を２回撒布し、第一區及第三區、第四區及第六區は藥劑を１回撒布したるも各區共品質に大差なく藥劑の影響と認む可きものなし。

ネオトン800及1000倍（水20lに對し石鹼60g加用）を茶樹に１回又は２回撒布を行ふ時既記の如く１回撒布にて降雨回數22回695.2mm以上23日、２回撒布にて降雨回數30回773.8mm以上42日にて茶芽を摘採製茶するときは、品質に藥劑の影響を認めず。

B　夏　　茶

藥劑撒布より摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第一九表　ネオトン撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	區名	撒布月日 回數	撒布月日 月日	摘採 月日	經過 日數	第１回降雨 撒布後	第１回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和５年	第一區	1	5月16日	6月20日	35	7	6.6	20	74.5	11	255.1	晴
	第二區	2	5月16日 5月23日	6月20日	35 28	7 當日	6.6 6.6	20 13	74.5 74.5	11	255.1	
	第三區	1	5月23日	6月20日	28	當日	6.6	13	74.5	11	255.1	晴、夜間降雨
	第四區	1	5月16日	6月20日	35	7	6.6	20	74.5	11	255.1	晴
	第五區	2	5月16日 5月23日	6月20日	35 28	7 當日	6.6 6.6	20 13	74.5 74.5	11	255.1	
	第六區	1	5月23日	6月20日	28	當日	6.6	13	74.5	11	255.1	晴、夜間降雨
昭和６年	第一區	1	5月28日	6月15日	18	當日	10.4	13	93.5	9	298.8	晴、午後四時より雨
	第二區	2	5月28日 6月 4日	6月15日	18 1	當日 2	10.4 16.5	13 6	93.5 93.5	9 5	298.8 197.8	
	第三區	1	6月 4日	6月15日	1	2	16.5	6	93.5	5	197.8	晴
	第四區	1	5月28日	6月15日	18	當日	10.4	13	93.5	9	298.8	晴、午後四時より雨
	第五區	2	5月28日 6月 4日	6月15日	18 1	當日 2	10.4 16.5	13 6	93.5 93.5	9 5	298.8 197.8	
	第六區	1	6月 4日	6月15日	1	2	16.5	6	93.5	5	197.8	晴

昭和５年度第一區及第四區は１回撒布にして５月16日に藥劑を撒布し、７日後に6.6mmの降雨あり、20日後に74.5mmの最多降雨ありて６月20日に摘採する迄に降雨日數35日にして降雨量255.1mmなり。

第二區及第五區は２回撒布にして第１回は第一區に同日、第２回は第１回撒布後８日に藥劑を撒布せり、第１回撒布は７日後に6.6mmの降雨あり、第２回撒布の時は其日の夜間6.6mmの降雨あり、最多降雨は第１回より起算にして20日後第２回撒布より13日後に74.5mmあり、６月20日に摘採する迄に降雨日數11日にして降雨量255.1mmなり。

第三區及第六區は１回撒布にして６月４日に藥劑を撒布し其日6.6mmの降雨ありて13日後に74.5mmの最多降雨あり、６月20日に摘採するまでに降雨日數11日、降雨量255.1mmなり。

昭和６年度第一區及第四區は前年同様１回撒布にして５月28日に藥劑を撒布し、當日10.4mmの降雨あり、13日後に93.5mmの最多降雨ありて６月15日の摘採迄に降雨日數9日にして降雨量298.8mmなり。

第二區及第五區は前年同様2回撒布にして第１回は第一區と同日、第２回は第1回撒布後８日に藥劑を撒布せり、第１回撒布は當日10.4mm第２回撒布は２日後に16.5mmの降雨あり、最多降雨は第１回撒布より起算して13日後、第２回撒布より６日後に93.5mmあり、６月15日に摘採する迄に降雨日數９日にして降雨量255.1mmなり。

第三區及第六區は１回撒布にして６月４日に藥劑を撒布し、２日後に16.5mmの降雨あり、６日後に93.5mmの最多降雨ありて６月15日に摘採する迄に降雨日數５日にして降雨量197.8mmなり。

夏茶に於けるネオトン撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

兩年共に摘採時及製茶作業中に異狀なく茶樹に藥害を認めず。

夏茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第二〇表　夏茶に於けるネオトンと製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和５年	第一區	17.0	14.0	15.8	18.7	65.5	Sup. F.		なし
	第二區	18.0	14.5	17.0	21.0	70.5	Fine		なし
	第三區	17.7	14.5	15.5	18.5	66.2	Sup. F.		なし
	第四區	17.8	14.3	13.8	19.7	65.6	Sup. F.		なし
	第五區	18.3	14.6	16.7	19.2	68.8	On F.		なし
	第六區	16.0	13.7	16.8	18.0	64.5	Sup. F.		なし

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和6年	第一區	24.5	17.0	16.8	20.2	78.5	F. a. Finest	收斂味あり	なし
	第二區	20.0	15.7	14.8	20.0	70.5	Fine		なし
	第三區	21.0	15.5	16.2	21.5	74.2	F. up		なし
	第四區	20.5	15.2	16.0	20.5	72.2	Full. F.		なし
	第五區	21.3	16.0	15.0	20.5	72.8	Full. F.		なし
	第六區	22.0	16.0	15.2	21.0	74.2	F. up		なし

上表に從へば昭和6年度は同5年に比し稍品質に於て優れるを認め得るも藥劑の影響と認む可きものなし。

第1回及第2回藥劑撒布共調査各項に異狀を認めず。

本試驗に於ける如きネオトン溶液を害蟲防除の目的を以て茶樹に1回又は2回撒布を行ふ時は、旣記の如く降雨回數11回雨量 255.1mm にて28日、5回 197.8mm にて11日を經過せば茶芽を摘採し得べし。

C 秋　　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象要項を表記すれば次に示す如し。

第二一表　ネオトン撒布より茶芽摘採に至る氣象概要

年度	區名	撒布月日 回數	撒布月日 月日	摘採 月日	經過日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和5年	第一區	1	8月12日	9月16日	35	3	2.5	10	55.0	7	106.4	晴
	第二區	2	8月12日 8月19日	9月16日	35 28	3 3	2.5 55.0	10 3	55.0 55.0	7	106.4	
	第三區	1	8月19日	9月16日	28	3	55.0	3	55.0	6	103.9	晴
	第四區	1	8月12日	9月16日	35	3	2.5	10	55.0	7	106.4	晴
	第五區	2	8月12日 8月19日	9月16日	35 28	3 3	2.5 55.0	10 3	55.0 55.0	7	106.4	
	第六區	1	8月19日	9月16日	28	3	55.0	3	55.0	6	103.9	晴
昭和6年	第一區	1	8月29日	9月18日	20	4	1.4	14	82.1	7	144.3	晴、夜間降雨
	第二區	2	8月29日 9月 5日	9月18日	20 13	4 1	1.4 7.5	14 7	82.1 82.1	7	144.3	
	第三區	1	9月 5日	9月18日	13	1	7.5	7	82.1	4	131.4	晴
	第四區	1	8月29日	9月18日	20	4	1.4	14	82.1	7	144.3	晴、夜間降雨
	第五區	2	8月29日 9月 5日	9月18日	20 13	4 1	1.4 7.5	14 7	82.1 82.1	7	144.3	
	第六區	1	9月 5日	9月18日	13	1	7.5	7	82.1	4	131.6	晴

昭和5年度第一區及第四區は1回撒布にして8月12日に藥劑を撒布し、3日後に 2.5mm の

降雨あり、10日後に 55.0mm の最多降雨ありて9月16日に摘採する迄の降雨日數7日にして降雨量 106.4mm なり。

第二區及第五區は2回撒布にして第1回は第一區と同日、第2回は第1回撒布後8日に藥劑を撒布せり、第1回撒布は3日後に 2.5mm 第2回撒布も3日後に 55.0mm の降雨あり、最多降雨は第1回撒布より起算して10日後、第2回撒布より3日後に 55.0mm あり、9月16日に摘採する迄に降雨日數7日にして降雨量 106.4mm なり。

第三區及第六區は1回撒布にして8月19日に藥劑を撒布し、3日後に 55.0mm の降雨あり之を以て摘採までの最多降雨とす、9月16日に摘採する迄の降雨日數6日にして降雨量 103.9mm なり。

昭和6年第一區及第四區は1回撒布にして8月29日に藥劑を撒布し、4日後に 1.4mm の降雨あり、14日後に 82.1mm の最多降雨ありて9月18日に摘採する迄の降雨日數7日にして降雨量 144.3mm なり。

第二區及第五區は2回撒布にして第1回は第一區と同日、第2回は第1回撒布後8日に藥劑を撒布せり、第1回撒布は4日後に 1.4mm 第2回撒布は1日後に 7.5mm の降雨あり、最多降雨は第1回撒布より14日後、第2回撒布より7日後に 82.1mm あり、9月18日に摘採する迄の降雨日數7日にして降雨量 106.4mm なり。

第三區及第六區は1回撒布にして9月5日に藥劑を撒布し、1日後に 7.5mm の降雨あり、7日後に 82.1mm の最多降雨あり、9月18日に摘採する迄の降雨日數4日にして降雨量 131.6mm なり。

秋茶に於けるネオトン撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

兩年共に摘採時及製茶作業中に異狀なく茶樹に藥害を認めず。

秋茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第二二表　秋茶に於けるネオトンと製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和5年	第一區	14.5	11.3	14.0	13.5	53.3	Good Sup.		なし
	第二區	15.5	12.0	11.3	14.3	53.1	Good Sup.		なし
	第三區	14.5	10.5	11.5	13.3	49.8	Good up		なし
	第四區	14.7	11.0	15.0	15.7	56.4	Sup.		なし
	第五區	15.0	11.5	14.2	15.0	55.7	On Sup.		なし
	第六區	14.0	11.0	11.5	13.5	50.0	Good up		なし

年度	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす薬劑の影響
昭和6年	第一區	17.5	14.0	16.3	17.5	65.3	Sup. F.	收斂性の味あり	薬劑臭あり
	第二區	16.8	13.7	16.0	17.2	63.7	Sup. up		なし
	第三區	17.0	14.0	15.0	17.3	63.3	Sup up		なし
	第四區	16.3	13.5	14.0	16.5	60.3	Full Sup.		なし
	第五區	17.8	14.3	16.0	18.0	66.1	Sup. F.		なし
	第六區	15.0	12.0	15.2	17.0	59.2	Full Sup.		なし

上表に據れば昭和6年度は同5年度に比し品質に於て稍優れるも第一區に於て收斂味及薬劑臭を認めたり。

本試驗に於ける如きネオトン溶液を害蟲驅除の目的を以て茶樹に1回又は2回撒布を行ふ時は、旣記の如く降雨回數6回雨量103.9mmにて28日、7回144.3mmにて20日、4回131.4mmにて13日にて茶芽を摘採し得るも、降雨回數7回144.3mmにて20日の場合に品質に收斂味及薬劑臭を有することあり。

D 小結

春茶

1 ネオトン800及1,000倍(水20lに對し、石鹼60g加用)を茶樹に1回又は2回撒布を行ひしに茶芽に藥害を認めず。

2 既定濃度の薬劑の1回撒布は撒布後降雨回數22回雨量692.2mm 33日、2回撒布は撒布後降雨回數30回773.8mm以上42日にて茶芽を摘採製茶するときは品質に薬劑の影響を認めず。

夏茶

1 兩年共薬劑撒布後茶芽に藥害を認めず。

2 旣定濃度の薬劑を1回又は2回撒布を行ふ時、降雨回數11回雨量255.1mm以上にて28日、5回197.8mm以上にて11日を經過せば茶芽を摘採し得べし。

秋茶

1 兩年共薬劑撒布後茶芽に藥害を認めず。

2 旣定濃度の薬劑を1回又は2回撒布するとき降雨回數6回雨量103.9mm以上にて28日、7回144.3mm以上にて20日、4回131.4mm以上にて13日にて茶芽を摘採し得るも、降雨回數7回144.3mm以上にて20日の場合に製茶品質に收斂味及薬臭を有ることあり。

概評

ネオトン800—1,000倍液の撒布は20日經過して摘採製茶したるものに、或る場合に於て製茶品質に薬劑臭を來す虞れあるを以て、各茶季の摘採終了直後に撒布し、撒布後20日以上を經過したる後摘採製茶すべし。

第四 「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑(デリス粉)

A 春茶

第二三表 「かんかう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布より茶芽摘採期に至る氣象概要

年度	區名	撒布 回數	撒布 月日	摘採 月日	經過日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
					日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和6年	第一區	1	3月27日	5月7日	41	當日	0.7	19	177.3	30	773.8	曇午後1時より濃霧、夜間降雨
	第二區	2	3月27日 4月4日	5月7日	41 33	當日 1	0.7 10.0	19 11	177.3 177.3	30 22	773.8 695.2	
	第三區	1	4月4日	5月7日	33	1	10.0	11	177.3	22	695.2	晴
	第四區	1	4月4日	5月7日	33	1	10.0	11	177.3	22	695.2	晴
	第五區	2	4月4日 4月18日	5月7日	33 20	1 當日	10.0 50.0	11 11	177.3 58.3	22 11	695.2 177.1	曇、夜間降雨

第一區は1回撒布にして3月27日に薬劑を撒布し、當日0.7mmの降雨あり、19日後に177.3mmの最多降雨ありて5月7日に摘採する迄の降雨日數30日にして降雨量773.8mmなり。

第二區は2回撒布にして第1回は第一區を同日、第2回は第一回撒布後8日にして第三區と同日なり。

第三區及第四區は1回撒布にして4月4日に薬劑を撒布し、1日後に10.0mmの降雨あり、11日後に177.3mmの最多降雨ありて5月7日の摘採迄に降雨日數22日にして降雨量695.2mmなり。

第五區は2回撒布にして第1回は第四區と同日、第2回は14日後の4月18日なり、第1回撒布は第四區と同日なるを以て說明を略す、第2回撒布は當日50.0mmの降雨あり、11日後に58.3mmの最多降雨ありて、5月7日に摘採する迄に第1回撒布より起算して降雨日數22日692.2mm、第2回撒布より11日177.1mmの總雨量あり。

春茶に於ける「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と茶樹竝に生葉との關係試驗成績

薬劑撒布後及摘採時に於ける觀察

薬劑撒布後に藥害を、摘採時に異狀を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

春茶に於て釜炒中に異狀を認めず。

春茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第二四表 「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と製茶品質との關係試驗

種 別	區 名	形 狀	色 澤	水 色	香 味	合 計	等 級	備 考	製品に及ぼす藥劑の影響
「かんこう」殺蟲劑	第一區	18.3	14.2	16.0	17.5	66.0	on F.		なし
	第二區	18.0	14.0	15.0	17.0	64.0	Sup. F.		なし
	第三區	17.0	13.7	14.5	17.5	62.7	Sup. up		なし
	第四區	17.5	13.5	14.0	16.5	61.5	Full Sup.		なし
	第五區	16.0	12.0	14.0	15.0	57.0	Sup.		なし
トバ殺蟲劑	第一區	18.3	14.2	16.0	17.5	66.0	Sup. F.	乾燥焦げ	なし
	第二區	18.0	14.0	17.0	15.0	64.0	Sup. up		なし
	第三區	17.0	13.7	14.5	17.5	62.7	Sup. up		なし
	第四區	17.5	13.5	14.0	16.5	61.5	Full sup.		なし
	第五區	16.0	12.0	14.0	15.0	57.0	Sup.		なし

兩劑共に第一區、第三區及第四區は1回撒布にして第二區及第五區は2回撒布なるも、各區共品質に大差なく、藥劑の影響と認む可きものなし。

「かんこう」殺蟲劑32g及64gを水20lに振出したるもの及トバ殺蟲劑30g及60g(水20lに對し石鹼80g加用)を茶樹に1回又は2回撒布を行ふ時、既記の如く降雨回數22回 171.1mm 以上20日經過して茶芽を摘採製茶する時は品質に藥劑の影響を認めず。

春茶に於ける「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

藥劑撒布後及摘採時に於ける觀察

藥劑撒布後に藥害を、摘採時に異狀を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

春茶に於ける釜炒中に異狀を認めず。

B 夏 茶

藥劑撒布より茶葉摘採に至る期間の氣象要項を表記すれば次に示す如し。

第二五表 「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布より茶芽摘採期に至る氣象概要

年 度	區 名	撒布 回數	撒布 月 日	摘採 月 日	經過 日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
昭和6年	第一區	1	5月19日	6月15日	27日	3日	14.2mm	22日	93.5mm	12日	340.0mm	晴
	第二區	2	5月19日 5月23日	6月15日	27 23	— —	— —	— —	— —	— —	— —	
	第三區	1	5月23日	6月15日	23	1	22.4	18	93.5	11	325.8	晴
	第四區	1	5月23日	6月15日	23	1	22.4	18	93.5	11	325.8	晴
	第五區	2	5月23日 6月30日	6月15日	23 16	1 1	22.4 62.2	18 11	93.5 93.5	11 7	325.8 272.9	晴

第一區は1回撒布にして5月19日に藥劑を撒布し、3日後に14.2mmの降雨あり、22日後に93.5mmの最多降雨ありて6月15日に摘採する迄の降雨日數12日にして降雨量340.0mmなり。

第二區は2回撒布にして第1回は第一區と同日、第2回は第1回撒布後4日にして第三區と同日なり。

第三區及第四區は1回撒布にして5月23日に藥劑を撒布し、1日後に22.4mmの降雨あり、18日後に93.5mmの最多降雨ありて6月15日に摘採する迄の降雨日數11日にして降雨量325.8mmなり。

第五區は2回撒布にして第1回撒布は第四區と同日、第2回撒布は7日後の5月30日なり、第1回撒布は第四區と同日なるを以て之を略し、第2回撒布は1日後に62.2mmの降雨あり、11日後に93.5mmの最多降雨あり、之は第1回撒布の18日後の最多降雨なり、6月15日に摘採する迄に第1回撒布より起算して降雨日數11日 325.8mm、第2回撒布より降雨回數7日 272.9mmの總雨量あり。

夏茶に於ける「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と茶樹並に生葉との關係試驗成績

藥劑撒布後及摘採時に於ける觀察

藥劑撒布後に藥害を、摘採時に異狀を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

夏茶に於て釜炒中に異狀を認めず。

夏茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第二六表 「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

種 別	區 名	形 狀	色 澤	水 色	香 味	合 計	等 級	備 考	製品に及ぼす藥劑の影響
「かんこう」殺蟲劑	第一區	23.0	17.5	17.0	20.0	77.5	F. Fnst.		なし
	第二區	23.5	18.2	15.5	20.7	77.9	F. Fnst.		なし
	第三區	24.3	18.0	15.0	21.0	78.3	F. Fnst.		なし
	第四區	24.0	17.8	16.7	20.5	79.0	Fnst.		なし
	第五區	23.0	17.0	16.5	20.0	76.5	F. Fnst.		なし
トバ殺蟲劑	第一區	23.0	17.5	17.0	20.0	77.5	F. Fnst.		なし
	第二區	23.5	18.2	15.5	20.7	77.9	F. Fnst.		なし
	第三區	24.3	18.0	15.0	21.0	78.3	F. Fnst.		なし
	第四區	24.0	17.8	18.7	20.5	81.0	Fnst.		なし
	第五區	23.0	17.0	16.5	20.0	76.5	F. Fnst.		なし

兩劑共第一區、第三區及第四區は1回撒布にして第二區及第五區は2回撒布なるも各區共品質に大差なく藥劑の影響と認む可きものなし。

本試驗に於ける「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑溶液を害蟲防除の目的を以て茶樹に1回又は2回撒布を行ふ時は、旣記の如く降雨日數11日雨量 325.8mm 以上にて23日を經過せば茶芽を摘採し得べし。

C 秋　　茶

藥劑撒布より茶葉摘採に至る期間の氣象要項を表記すれば次に示す如し。

第二七表　「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布より茶芽摘採期に至る氣象概要

年度	區名	撒布		摘採	經過	第1回降雨		最多降雨		摘採當日迄の降雨		撒布當日同作業後の天氣
		回數	月日	月日	日數	撒布後	量	撒布後	量	日數	量	
					日		mm	日	mm	日	mm	
昭和6年	第一區	1	8月27日	9月8日	12	當日	2.8	7	10.8	5	23.0	晴、夜間降雨
	第二區	2	8月27日 9月3日	9月8日	12 5	當日 當日	2.8 10.8	7 當日	10.8 10.8	5 3	23.0 18.8	
	第三區	1	9月3日	9月8日	5	當日	10.8	當日	10.8	3	18.8	晴、午後3時より夕立
	第四區	1	8月27日	9月8日	12	當日	2.8	7	10.8	5	23.0	晴、夜間降雨
	第五區	2	8月27日 9月3日	9月8日	12 5	當日 當日	2.8 10.8	7 當日	10.8 10.8	5 3	23.0 18.8	晴、午後3時より夕立

第一區及第四區は1回撒布にして8月27日に藥劑を撒布し、當日 2.8mm の降雨あり、7日後に 10.8mm の最多降雨ありて9月8日に摘採する迄の降雨日數5日にして降雨量 23.0mm なり。

第二區及第五區は2回撒布にして第1回は第一區及第四區と同日、第2回は第1回撒布後7日にして第三區及第五區と同日なり。

第三區は1回撒布にして9月3日に藥劑を撒布し、當日 2.8mm の降雨あり、7日後に 10.8 mm の最多降雨ありて9月8日に摘採する迄の降雨日數3日にして降雨量 18.8mm なり。

秋茶に於ける「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と茶樹竝に生葉との關係試驗成績

藥劑撒布後及摘採時に於ける觀察

藥劑撒布後に藥害を、摘採時に異狀を認めず。

製茶作業中に於ける觀察

秋茶に於て釜炒中に異狀を認めず。

秋茶の品質を表記すれば次に示す如し。

第二八表　「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

種別	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
「かんこう」殺蟲劑	第一區	17.0	13.8	15.7	17.0	63.5	Sup. up	少しく異臭あり	なし
	第二區	16.5	14.0	15.0	16.5	62.0	Sup. up		なし
	第三區	17.5	14.3	16.0	16.7	64.5	Sup. F.		なし
	第四區	16.7	13.7	15.7	17.3	63.4	Sup. up		なし
	第五區	18.0	14.5	17.0	16.8	66.3	Sup. F.		なし

種別	區名	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
トバ殺蟲劑	第一區	17.0	13.8	15.7	17.0	63.5	Sup. up	稍異臭あり	なし
	第二區	16.5	14.0	15.0	16.5	62.0	Sup. up		なし
	第三區	17.5	14.3	16.0	16.7	64.5	Sup. F.		なし
	第四區	16.7	13.7	15.7	17.3	63.4	Sup. up		なし
	第五區	18.0	14.5	17.0	16.8	66.3	Sup. F.		なし

兩劑共第一區、第三區及第四區は1回撒布にして第二區及第五區は2回撒布なり、兩劑共第三區を除き各區品質に大差なく藥劑の影響と認む可きものなし。

本試驗に於ける「かんこう」殺蟲劑及トバ殺蟲劑溶液を害蟲防除の目的を以て茶樹に1回又は2回撒布を行ふ時は、旣記の如く降雨日數3日雨量 18.8mm にて5日にて茶芽を摘採製茶する場合は品質に稍異臭を認むることあり、降雨日數5日、雨量 23.0mm にて12日を經過して茶芽を摘採製茶する場合には品質に異狀を認めず。

D 小　　結

春　　茶

「かんこう」殺蟲劑 32g 及 64g（水 20l に溶解す）及トバ殺蟲劑 30g 及 60g（水 20l に對し石鹼 80g 加用）を茶樹に1回又は2回撒布せる場合に於て茶樹に藥害なく、撒布より茶芽摘採に至る期間に降雨11回、總雨量 177.1mm にて20日を經過すれば製茶品質に藥劑の影響を認めず。

夏　　茶

上記藥劑にて同様の方法を以て撒布せる場合降雨11回、總雨量 325.8mm にて23日を經過すれば製茶品質に藥劑の影響を認めず。

秋　　茶

旣記の藥劑にて旣定の方法を以て茶樹に撒布せる場合、降雨3回、總雨量 18.8mm にて5日經過して摘採製茶する時は品質に少しく異臭を認むる場合あり、降雨5回、總雨量 23.0mm にて12日經過して茶芽を摘採製茶する時は品質に藥劑の影響を認めず。

概　　評

「かんこう」殺蟲劑 32g 及 64g（水 20l に溶解す）及トバ殺蟲劑 30g 及 60g（水 20l に對し石鹼 80g 加用）溶液の撒布は12日經過して摘採製茶したる時は品質に藥劑の影響を認めざるも、5日經過して摘採製茶したるものに或る場合に於て製茶品質に異臭を殘す虞れあるを以て、摘採期を12日まで延長するを良しとす。

乙. 見越試驗

(一) 試驗方法

試驗區を平鎭茶業試驗支所第1圃場第48番及第65番の各 3.3a に採り供試茶樹齢28年(昭和13年)なる青心種を使用す、各區6畦、茶株60株とし石鹼はアデカ農藝石鹼を使用し、40l の藥液を撒布せり。

(1) 撒布方法及藥劑の用量

摘採5日前區、10日前區1週間前區及2週間前區とす、但し5日前區及10日前區は48番、1週間前區及2週間前區は68番なり。

第一區　石鹼液

藥量　石鹼　120g　水　20l

第二區　除蟲菊加用石鹼液

藥量　除蟲菊粉　100g　石鹼　100g　水　20l

第三區　ネオトン(400 倍)

藥量　ネオトン(液狀)　50g　石鹼　100g　水　20l

第四區　デリス乾根液

藥量　デリス乾根　80g　石鹼　100g　水　20l

第五區　標準(無撒布)

(2) 調査方法

甲試驗に準ず(第5頁參照)

A 春茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第二九表　藥劑撒布より茶芽摘採期に至る氣象概要

年度	區名	撒布月日	摘採月日	經過日數	第1回降雨		最多降雨		摘採當日迄の降雨		撒布當日同作業後の天氣
					撒布後	量	撒布後	量	日數	量	
				日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和13年	摘採10日前	4月12日	4月22日	10	3	5.7	8	84.2	6	145.5	晴、和風
	同5日前	4月17日	4月22日	5	3	84.2	3	84.2	4	129.1	晴、和風
	同2週間前	4月12日	4月26日	14	3	5.7	8	84.2	10	210.1	(摘採10日前の第2回摘採を之に當てる)
	同1週間前	4月17日	4月26日	9	3	84.2	3	84.2	8	203.7	(摘採5日前の第2回摘採を之に當てる)
昭和14年	同10日前	4月19日	4月28日	9	1	15.8	3	48.0	7	118.7	晴、和風、夜間降雨
	同5日前	4月27日	5月1日	4	2	6.1	3	54.0	3	71.5	晴、疾風
	同2週間前	4月19日	5月5日	16	1	15.8	11	54.0	14	268.8	(摘採10日前の第2回摘採を之に當てる)
	同1週間前	4月27日	5月5日	8	2	6.1	3	54.0	7	150.1	(摘採5日前の第2回摘採を之に當てる)

昭和13年度摘採10日前區は4月12日に撒布し、3日後に 5.7mm の降雨あり、8日後に最多降雨 84.2mm ありて、4月22日の摘採までに總降雨日數6日、總雨量 145.5mm なり。4月26日の第2回摘採を以て摘採2週間前區となし、最多降雨前回と同日、總降雨日數10日、總雨量 210.1 mm なり。

摘採5日前區は4月17日に撒布し、3日後に 84.2mm の降雨あり、之を以て最多降雨となし、4月22日の摘採までの總降雨日數4日、總降雨量 129.1mmなり、4月26日の第2回摘採を以て摘採1週間前區となし、最多降雨前回と同日、總降雨日數8日、總降雨量 203.7mm なり。

昭和14年度摘採10日前區は4月19日に撒布し、1日後に 15.8mm の降雨あり、3日後に最多降雨 48.0mm ありて、4月28日の摘採までに降雨日數7日、118.7mm の降雨量あり、5月5日の第2回摘採を以て摘採2週間前區となし、最多降雨は11日後にして 54.0mm、總降雨日數14日總降雨量 268.8mm なり。

摘採5日前區は4月27日に撒布し、2日後に 6.1mm の降雨あり、3日後に最多降雨 6.1mm あり、5月1日の摘採までの總降雨日數3日、總降雨量 71.5mm なり。5月5日の第2回摘採を以て摘採1週間前區となし、最多降雨前回と同日、總降雨日數7日、總降雨量 150.1mm なり。

春茶に於ける藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

兩年共各作業中に異狀を認めず。藥劑及品質を表記すれば次に示す如し。

第三〇表　摘採10日前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	20.1	13.7	13.6	20.8	68.2	On F.	刺激性味あり	不適
	除蟲菊加用石鹼液	20.1	13.7	13.5	21.8	69.1	F.		なし
	ネオトン	20.1	13.7	13.9	21.5	69.2	F.	刺激性味あり	不適
	デリス液	20.1	13.7	14.0	22.0	69.8	F.		なし
	標準	20.1	13.7	14.2	20.5	68.5	On F.		なし

年　度	薬劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等　級	備　考	製品に及ぼす薬劑の影響
昭和14年	石鹼液	19.0	14.0	12.0	21.0	66.0	Sup. F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	18.8	13.8	12.2	21.5	66.3	Sup. F.		なし
	ネオトン	19.0	14.2	12.2	21.8	67.2	On F.	刺激性味あり	不適
	デリス液	19.5	14.5	13.0	22.0	69.0	On F.		なし
	標準	19.0	13.8	12.8	20.8	66.4	Sup. F.		なし

註　撒布より摘採までの經過日數は昭和13年は10日、昭和14年は9日なり。

除蟲菊加用石鹼液、デリス液は兩年共製茶品質に何等異常を認めめざるも、石鹼液は昭和13年、ネオトンは兩年共刺戟性味を感じ製茶として不適とされたり。卽ち撒布より摘採までの經過日數10日總降雨6日、145.5mm 又は經過日數9日、總降雨7日、118.7mm の場合には所定の石鹼液にて刺激性味を有することがあり、ネオトンにては兩年共刺激性味を有せり。

第三一表　摘採5日前薬劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年　度	薬劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等　級	備　考	製品に及ぼす薬劑の影響
昭和13年	石鹼液	20.1	13.7	13.2	20.8	67.8	On F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	20.1	13.7	14.0	20.3	68.1	On F.		なし
	ネオトン	20.1	13.7	13.5	21.2	68.5	On F.		なし
	デリス乾根液	20.1	13.7	13.6	22.5	69.9	F.		なし
	標準	20.1	13.7	13.7	21.0	68.5	On F.		なし
昭和14年	石鹼液	20.0	14.3	15.0	20.3	69.6	On F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	19.5	14.0	13.5	20.0	67.0	On F.	異臭あり	不適
	ネオトン	21.0	14.7	15.0	20.5	71.2	F.		なし
	デリス乾根液	21.5	15.0	14.8	21.0	72.3	F.	刺激性味あり	不適
	標準	21.0	15.0	14.7	20.7	71.4	F.		なし

註　撒布より摘採までの日數昭和13年は5日、昭和14年は4日なり。

石鹼液及ネオトンにては兩年共製茶品質に何等異常を認めざるも、昭和14年に於て除蟲菊加用石鹼液に異臭を感じ、デリス乾根液に刺激性味ありたり、卽ち撒布より摘採までの經過日數5日、總降雨4日、129.1mm の場合には各種共異狀を認めざるも、撒布より摘採までの經過日數4日、總降雨3日、71.5mm の場合には除蟲菊加用石鹼液に異臭、デリス液に刺激性味ありて製品として不適とされたり。

第三二表　摘採2週間前薬劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年　度	薬劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等　級	備　考	製品に及ぼす薬劑の影響
昭和13年	石鹼液	18.5	12.7	13.5	22.1	66.8	On F.	收斂味あり	不適
	除蟲菊加用石鹼液	19.0	13.3	13.6	21.8	67.7	On F.		なし
	ネオトン	19.0	13.1	14.0	21.3	67.4	On F.		なし
	デリス乾根液	19.5	13.1	13.3	21.8	67.7	On F.		なし
	標準	18.8	12.8	13.8	21.8	67.2	On F.		なし
昭和14年	石鹼液	20.5	14.5	14.0	20.5	69.5	On F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	19.0	13.5	15.0	21.0	68.5	On F.		なし
	ネオトン	21.0	14.8	14.5	21.5	71.8	F.		なし
	デリス乾根液	21.2	15.0	14.8	21.7	72.7	F.		なし
	標準	21.0	15.0	15.2	22.0	73.2	Full Sup.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は4日、昭和14年は16日なり。

兩年共各種に異狀を認めず。卽ち撒布より摘採までの經過日數14日、總降雨回數10回 210mm にて茶芽を摘採製茶したる場合、石鹼液に收斂味を感じたり、降雨回數14回 268,8mm にて經過日數16日の場合には各種共何等異狀を認めず。

第三三表　摘採1週間前薬劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年　度	薬劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等　級	備　考	製品に及ぼす薬劑の影響
昭和13年	石鹼液	18.8	12.9	13.1	21.9	66.7	On F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	18.6	12.9	12.7	21.6	65.8	Sup. F.		なし
	ネオトン	19.0	12.6	12.4	21.3	65.3	Sup. F.		なし
	デリス乾根液	19.2	12.8	12.9	21.5	66.4	On F.		なし
	標準	19.2	13.0	12.9	21.7	66.8	On F.		なし
昭和14年	石鹼液	21.0	15.0	14.5	22.0	72.5	F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	20.8	14.8	15.3	20.3	71.2	F.		なし
	ネオトン	20.5	14.7	14.0	20.0	69.2	On F.		なし
	デリス乾根液	21.3	15.3	15.0	20.5	72.1	F.		なし
	標準	20.0	14.0	14.2	20.5	68.7	On F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は9日、昭和14年は8日なり。

上表に示す如く昭和13年の製茶品質は翌年より少しく劣るは氣候の不良によるものにして薬

劑の製茶品質に及ぼす影響なしと認む。

所定の各藥劑を撒布する場合は前記せる如く、降雨８回、203.7mm の場合９日後、降雨７回 150.1 mm の場合８日後に茶芽を摘採し製茶するに於ては製茶に藥劑の影響を認めず。

Ｂ 夏　　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第三四表　藥劑撒布より茶芽摘採期に至る氣象概要

年度	區名	撒布 月日	摘採 月日	經過 日數	第１回降雨 撒布後	第１回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日同作業後の天氣
				日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和13年	摘採10日前	6月 4日	6月13日	9	1	2.1	1	2.1	1	2.1	晴、西北の和風
	同 5日前	6月 9日	6月13日	4	—	—	—	—	—	—	晴、西北の疾風
	同 2週間前	6月 4日	6月21日	17	1	2.1	11	11.0	2	13.1	(摘採10日前第２回摘採を之に當てる)
	同 1週間前	6月 9日	6月21日	12	6	11.0	6	11.0	6	11.0	(摘採５日前第２回摘採を之に當てる)
昭和14年	同 10日前	6月 5日	6月15日	10	4	97.5	4	97.5	6	187.6	晴、南西の和風
	同 5日前	6月15日	7月22日	7	3	55.3	4	66.7	3	142.4	曇、南西の强風
	同 2週間前	6月 5日	7月 3日	21	4	97.5	4	97.5	9	330.0	(摘採10日前第２回摘採を之に當てる)
	同 1週間前	6月15日	7月 3日	19	3	55.3	4	66.7	3	142.4	(摘採５日前第２回摘採を之に當てる)

昭和13年度摘採10日前區は６月４日に撒布し、１日後に 2.1mm の降雨あり、之を以て６月13日の摘採までの最多降雨及總雨量となす。６月21日の第２回摘採を以て摘採２週間前區となし、最多降雨は11日後に 11.0mm あり、降雨日數２日總雨量 13.1mm なり。

摘採５日前區は６月９日に撒布し、摘採までに降雨なし６月21日の第２回摘採を以て摘採１週間前區となす。撒布後第１回の降雨は６日後にして雨量 11.0mm 之を以て最多降雨及總雨量となす。

昭和14年度摘採10日前區は６月５日に撒布し、４日後に 97.5mm の降雨ありて之を以て６月15日摘採までの最多降雨となす。總降雨日數は６日總雨量 187.6mm なり。７月３日の第２回摘採を以て２週間前區となし、最多降雨は第１回摘採と同じく總降雨日數は９日總雨量 330.0mm なり。

摘採５日前區は６月15日に撒布し、３日後に 55.3mm の降雨あり、最多降雨は４日後に 66.7 mm あり、６月22日の摘採までに總降雨日數３日、總雨量 142.4mm なり、７月３日の第２回摘採を以て摘採１週間前區となし、最多降雨及總雨量は第１回摘採と同し。

夏茶に於ける藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

兩年共各作業中に異狀を認めず藥劑及品質を表記すれば次に示す如し。

第三五表　摘採10日前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	23.5	15.8	15.5	25.0	79.8	F. Fnst.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	22.0	15.3	11.8	22.0	71.1	Fnst.		なし
	ネオトン	21.0	15.0	14.0	22.8	72.8	Full F.		なし
	デリス乾根液	20.5	14.8	12.0	20.8	68.1	On F.		なし
	標準	18.0	12.5	11.8	20.0	62.3	Sup. up		なし
昭和14年	石鹼液	23.5	16.5	15.0	24.0	79.0	F. Fnst.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	22.8	15.7	14.0	23.0	75.5	F. up	異臭あり	不適
	ネオトン	22.8	16.0	14.3	22.5	75.6	F. up		なし
	デリス乾根液	22.8	16.2	14.5	23.3	76.8	F. up		なし
	標準	22.3	15.5	14.3	23.7	75.8	F. up		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は９日、昭和14年は10日なり。

昭和14年に於ける除蟲菊加用石鹼液は製茶に異臭を認めたるも、其他にありて何等異狀を認めず、卽ち撒布より摘採までの經過日數９日、總降雨１日 2.1mm の場合に各種共異狀を認めざるも、撒布より摘採までの經過日數10日、總降雨６日、187.6mm の場合に於て除蟲菊加用石鹼液に異臭を認め製品として不適とされたり。

第三六表　摘採５日前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	18.0	12.8	12.2	17.0	60.0	Full Sup.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	20.0	14.0	12.0	18.5	64.5	Sup. F.		なし
	ネオトン	17.0	12.0	12.5	17.5	59.0	Full Sup.		なし
	デリス乾根液	20.3	14.2	12.0	18.0	64.5	Sup. F.		なし
	標準	16.7	11.8	12.0	17.0	57.5	Sup.		なし
昭和14年	石鹼液	21.0	15.2	14.8	20.5	71.5	F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	21.3	15.5	15.0	20.4	72.2	F.		なし
	ネオトン	21.5	15.7	15.2	21.0	73.4	Full F.	刺激性味あり	不適
	デリス乾根液	21.3	15.7	14.5	20.0	71.5	F.	沈澱物多し	なし
	標準	21.8	15.7	15.5	22.0	75.0	F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は４日、昭和14年は７日なり。

昭和13年には何等異狀を認めざるも、昭和14年に於けるネオトンに刺激性ありて製茶として不適とされたり。卽ち撒布より摘採までの經過日數4日降雨無きも各種共異狀を認めざるも、經過日數7日降雨回數3回雨量 142.4mm にてネオトンに刺激性味を感じたり。

第三七表　摘採2週間前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	23.5	16.5	14.7	24.0	78.7	F. Fnst.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	21.0	15.0	13.2	22.5	71.7	F.		なし
	ネオトン	17.5	13.3	12.5	21.5	64.8	Sup. F.		なし
	デリス乾根液	17.0	12.5	12.0	20.0	61.5	Full Sup.		なし
	標準	17.5	13.0	13.3	20.5	64.3	Sup. F.		なし
昭和14年	石鹼液	20.0	15.3	15.7	21.5	72.5	F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	19.7	14.7	15.0	20.0	69.4	On F.		なし
	ネオトン	19.5	14.3	14.8	12.0	69.6	On F.		なし
	デリス乾根液	19.0	14.0	15.0	20.0	68.0	On F.		なし
	標準	20.2	14.8	15.3	20.5	70.8	F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は17日、昭和14年は21日なり。

兩年共各種に異狀を認めず、旣記の如き濃度の上記藥液を茶樹に撒布する時は前記の如き夏茶の氣象狀態に於て、經過日數17日、降雨2回、雨量 13.1mm 21日9回 330.0mm を經過したる場合に於ては製茶品質に惡影響を認めざりき。

第三八表　摘採1週間前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	16.0	12.0	14.7	19.0	61.7	Full Sup.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	19.0	13.5	13.5	19.2	65.2	Sup. F.		なし
	ネオトン	18.5	13.5	13.0	20.3	65.3	Sup. F.		なし
	デリス乾根液	21.0	14.5	14.0	21.0	70.5	F.		なし
	標準	17.5	14.0	13.5	20.0	65.0	Sup. F.		なし
昭和14年	石鹼液	21.0	15.0	15.0	21.0	72.0	F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	19.7	14.3	14.5	19.5	68.0	On F.		なし
	ネオトン	20.0	14.5	14.0	20.0	68 5	On F.		なし
	デリス乾根液	19.3	14.5	14.0	20.3	68.1	On F.	異臭あり	不適
	標準	19.5	14.5	14.3	19.0	67.3	On F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は12日、昭和14年は19日なり。

昭和13年には何等異狀を認めざるも、昭和14年に於けるデリス液は製茶に異臭を認めたるも其他にありては何等異狀を認めず、卽ち撒布より摘採までの經過日數12日、降雨6回 11.0mm に各種共異狀を認めざるも、經過日數19日、降雨3回 142.4mm の場合に於てデリス液は製茶に異臭を認め、製品として不適とされたり。

C. 秋　茶

藥劑撒布より茶芽摘採に至る期間の氣象狀況を表記すれば次に示す如し。

第三九表　藥劑撒布より茶芽摘採期に至る氣象概要

年度	區名	撒布月日	摘採月日	經過日數	第1回降雨 撒布後	第1回降雨 量	最多降雨 撒布後	最多降雨 量	摘採當日迄の降雨 日數	摘採當日迄の降雨 量	撒布當日作業後の天氣
				日	日	mm	日	mm	日	mm	
昭和13年	摘採10日前	8月18日	8月27日	9	當日	4.0	當日	4.0	3	8.6	(西南の疾風、午後5時頃より驟雨)
	同5日前	8月23日	8月27日	4	3	3.1	1	3.1	1	3.1	(西北の疾風、午前10時雨あり)
	同2週間前	8月18日	9月7日	20	當日	4.0	12	65.0	8	86.0	(摘採10日前の第2回摘採を之に當てる)
	同1週間前	8月23日	9月7日	15	3	3.1	7	65.0	6	86.0	(摘採5日前の第2回摘採を之に當てる)
昭和14年	同10日前	9月6日	9月16日	10	2	0.1	3	48.1	3	71.7	晴、西南の軟風
	同5日前	9月11日	9月16日	5	4	5.2	5	5.2	1	5.2	晴、西北の軟風
	同2週間前	9月6日	9月21日	15	2	0.1	3	48.1	5	75.7	(摘採10日前の第2回摘採を之に當てる)
	同1週間前	9月11日	9月21日	10	5	5.2	5	5.2	3	9.1	(摘採5日前の第2回摘採を之に當てる)

昭和13年度摘採10日前區は8月18日に撒布し、當日 4.0mm の降雨あり、之を以て最多降雨となす、8月27日の摘採迄に總降雨日數3日、總雨量 8.6mmなり。9月7日の第2回摘採を以て摘採2週間前區となし、最多降雨は12日後に 65.0mm にして總降雨日數8日、總雨量 86.0mmなり。

摘採5日前區は8月23日に撒布し、同月27日の摘採までの第1回降雨は3日後にして 3.1mm あり、之を以て最多降雨及總雨量となす。9月2日の第2回摘採を以て摘採1週間前區となし最多降雨は7日後にして 65.0mm あり、總降雨日數6日、總雨量 86.0mm なり。

昭和14年度摘採10日前區は9月6日に撒布し、2日後に 0.1mm の降雨あり。9月16日の摘採までの最多降雨は3日後に 48.1mm 總降雨日數3日、總雨量 71.7mm なり。9月21日の第2回摘採を以て摘採2週間前區となし、最多降雨は第1回と同じく、總降雨日數5日總降雨量 75.7mm なり。

摘採5日前區は9月11日に撒布し、4日後に第1回降雨 5.2mm ありて、之を以て9月16日摘採までの最多降雨及總雨量となす。9月21日の第2回摘採を以て摘採1週間前區となし、最多

降雨は第１回と同じく、總降雨日數３日、總雨量 9.1mmなり。

秋茶に於ける藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

兩年共各作業中に異狀を認めず。藥劑及品質を表記すれば次に示す如し。

第四〇表　摘採10日前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼすの藥劑影響
昭和13年	石鹼液	23.0	16.0	14.5	21.5	75.0	F. up		なし
	除蟲菊加用石鹼液	22.5	16.2	15.8	21.0	75.5	F. up		なし
	ネオトン	21.5	15.5	15.5	15.5	74.5	F. up		なし
	デリス乾根液	22.0	15.5	14.5	20.5	72.5	Full F.		なし
	標準	24.5	17.0	15.5	21.5	78.5	F. Fnst.		なし
昭和14年	石鹼液	17.5	13.5	13.0	17.0	61.0	Full Sup.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	20.0	14.3	13.5	17.3	65.1	Sup. F.		なし
	ネオトン	19.7	14.0	13.3	18.5	65.5	Sup. F.		なし
	デリス乾根液	19.5	13.7	13.0	17.5	63.7	Sup. up		なし
	標準	19.5	14.0	13.5	18.0	65.0	Sup. F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は９日、昭和14年は10日なり。

兩年共製茶品質に異狀を認めず。既記の如き濃度の上記藥劑を茶樹に撒布する時は前記の如き秋茶の氣象狀態に於て、降雨３回雨量 8.6 mmにて９日、３回 71.7mm にては10日を經過したる場合に於ては製茶品質に悪影響を認めざりき。

第四一表　摘採５日前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼすの藥劑影響
昭和13年	石鹼液	22.0	16.0	15.5	22.0	75.5	F. up		なし
	除蟲菊加用石鹼液	23.5	16.5	14.7	23.0	77.7	F. Fnst.		なし
	ネオトン	24.0	16.7	15.0	22.5	78.2	F. Fnst.		なし
	デリス乾根液	22.0	15.0	15.2	21.5	73.7	Full F.		なし
	標準	23.5	16.5	14.8	22.0	76.8	F. up		なし
昭和14年	石鹼液	19.0	14.0	13.0	18.5	64.5	Sup. F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	18.0	13.5	15.3	18.3	65.1	Sup. F.		なし
	ネオトン	18.5	13.8	14.0	18.0	64.3	Sup. F.		なし
	デリス乾根液	18.5	13.8	14.0	17.5	63.8	Sup. up		なし
	標準	18.3	13.7	15.0	17.5	64.5	Sup. F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は４日、昭和14年は５日なり。

兩年共製茶品質に異狀を認めず。既記の如き濃度の上記藥劑を茶樹に撒布する時は前記の如き秋茶の氣象狀態に於て、降雨１回 3.1mm にて４日、1回 5.2mm にては5日を經過したる場合に於ては製茶品質に悪影響を認めざりき。

第四二表　摘採２週間前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	20.0	14.8	15.3	19.0	69.1	F.		なし
	除蟲菊加用石鹼液	20.5	15.0	14.7	20.0	70.2	F.		なし
	ネオトン	19.5	14.0	13.5	19.0	66.0	On F.		なし
	デリス乾根液	19.7	14.3	14.8	20.5	69.3	F.		なし
	標準	20.0	14.5	14.0	20.0	68.5	F.		なし
昭和14年	石鹼液	18.0	13.0	14.5	18.0	63.5	Sup. up		なし
	除蟲菊加用石鹼液	19.0	13.8	15.0	18.3	66.1	On F.		なし
	ネオトン	19.3	14.0	15.8	18.5	67.6	On F.		なし
	デリス乾根液	19.0	13.8	15.5	18.2	66.5	On F.		なし
	標準	18.0	13.3	15.2	17.2	63.7	Sup. F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は20日、昭和14年は15日なり。

兩年共製茶品質に異狀を認めず。既記の如き濃度の上記藥劑を茶樹に撒布する時は前記の如き秋茶の氣象狀態に於て降雨8回雨量 86.0mm にて20日5回 75.7mm にては15日を經過したる場合に於ては製茶品質に悪影響を認めざりき。

第四三表　摘採１週間前藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和13年	石鹼液	22.0	15.3	14.7	20.0	72.0	Sup. up		なし
	除蟲菊加用石鹼液	21.7	15.5	15.0	20.9	73.1	Sup. up		なし
	ネオトン	21.0	15.0	14.0	20.0	70.0	F.		なし
	デリス乾根液	20.5	15.0	14.7	19.5	69.7	Fnst.		なし
	標準	20.0	14.5	14.3	19.0	67.8	On F.		なし

年度	藥劑の種類	形狀	色澤	水色	香味	合計	等級	備考	製品に及ぼす藥劑の影響
昭和14年	石鹼液	18.5	13.5	14.0	18.5	64.5	Sup. up		なし
	除蟲菊加用石鹼液	18.0	13.2	14.5	18.3	64.0	Sup. up		なし
	ネオトン	18.5	13.5	15.3	19.0	66.3	On F.		なし
	デリス乾根液	19.0	13.7	15.0	18.7	66.4	On F.		なし
	標準	19.0	14.7	16.0	18.7	68.4	On F.		なし

註　撒布より摘採までの日數は昭和13年は15日、昭和14年は10日なり。

兩年共製茶品質に異狀を認めず。既記の如き濃度の上記藥劑を茶樹に撒布する時は前記の如き秋茶の氣象狀態に於て、降雨6回雨量86.0mmにて15日、3回9.1mmにては10日を經過したる場合に於ては製茶品質に惡影響を認めざりき。

D 小　結

春　茶

第四四表　藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	經過日數 (日)	降雨回數 (回)	雨量 (mm)	石鹼液	除蟲菊加用石鹼液	ネオトン	デリス乾根液
昭和13年	摘採10日前	10	6	145.5	刺戟性味あり	異狀なし	刺戟性味あり	異狀なし
	同 5日前	5	4	129.1	異狀なし	同上	異狀なし	同上
	同 2週間前	14	10	210.1	收斂味あり	同上	同上	同上
	同 1週間前	9	8	203.7	異狀なし	同上	同上	同上
昭和14年	同 10日前	9	7	118.7	同上	同上	刺戟性味あり	同上
	同 5日前	4	3	71.5	同上	異臭あり	異狀なし	刺戟性味あり
	同 2週間前	16	14	268.8	同上	異狀なし	同上	異狀なし
	同 1週間前	8	7	150.1	同上	同上	同上	同上

上記に見らるる如く藥劑撒布より4—14日を經過して摘採製茶たる場合、前記の如き春茶の氣象にては上記濃度の藥劑は製茶品質に惡影響を及ぼす場合と、然らざる場合とがありて一定せず。

夏　茶

第四五表　藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	經過日數 (日)	降雨回數 (回)	雨量 (mm)	石鹼液	除蟲菊加用石鹼液	ネオトン	デリス乾根液
昭和13年	摘採10日前	9	1	2.1	異狀なし	異狀なし	異狀なし	異狀なし
	同 5日前	4	—	—	同上	同上	同上	同上
	同 2週間前	17	2	13.1	同上	同上	同上	同上
	同 1週間前	12	6	11.0	同上	同上	同上	同上
昭和14年	同 10日前	10	6	187.6	同上	異臭あり	同上	同上
	同 5日前	7	3	142.4	同上	異狀なし	刺戟性味あり	同上
	同 2週間前	21	9	330.0	同上	同上	異狀なし	同上
	同 1週間前	19	3	142.4	同上	同上	同上	異臭あり

上表に見らるる如く藥劑撒布より4—21日に摘採製茶したる場合、前記の如き夏茶の氣象にては上記の濃度の藥劑は石鹼液以外にては時に異臭又は刺戟性味を有することあり。

秋　茶

第四六表　藥劑撒布と製茶品質との關係試驗成績

年度	區名	經過日數 (日)	降雨回數 (回)	雨量 (mm)	石鹼液	除蟲菊加用石鹼液	ネオトン	デリス乾根液
昭和13年	摘採10日前	9	3	8.6	異狀なし	異狀なし	異狀なし	異狀なし
	同 5日前	4	1	3.1	同上	同上	同上	同上
	同 2週間前	20	8	86.0	同上	同上	同上	同上
	同 1週間前	15	6	86.0	同上	同上	同上	同上
昭和14年	同 10日前	10	3	71.7	同上	同上	同上	同上
	同 5日前	5	1	5.2	同上	同上	同上	同上
	同 2週間前	15	5	75.7	同上	同上	同上	同上
	同 1週間前	10	3	9.1	同上	同上	同上	同上

上表に見らるる如く藥劑撒布より4—20日摘採製茶したる場合、前記の如き秋茶の氣象にては既定濃度の上記藥劑は製茶品質に惡影響を認めざりき。

概　評

既定濃度の石鹼液、除蟲菊加用石鹼液、ネオトン及デリス乾根液等を撒布し秋茶に於て經過日數4—20日にて茶芽を摘採製茶したる場合製茶品質に何等影響を認めざるも春茶にて4—14日

夏茶にて4—19日に摘採製茶するときは、製茶品質に悪影響を及ぼすことあり、是等の原因に就いては各表に示したる薬劑撒布より降雨までの日數、降雨日數或は降雨量等の影響のみにては現在までの處にて適確なる判斷を下すこと困難なり。

上記薬劑の撒布を各茶季摘採終了直後に行ふときは次季製茶品質に何等影響を及ぼさざるも摘採期間中に撒布するときは製茶品質に悪影響を示すことあるを以て此期間の撒布は避くるを可とす、併して摘採期中に薬劑撒布を必要とする時は上記4種の薬劑中除蟲菊石鹼加用液の使用比較的安全なり。

附　　録

試驗期間の氣象狀況

A.　昭和5年春茶試驗期間の氣象狀況（風の欄中左午前、右午後とす）

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	脂松合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
4月5日	晴	17.8	73.0	1.5	和軟	一區二區撒布	一區二區四區五區撒布		夜間降雨
4月6日	〃	21.0	83.0	—	軟和				
4月7日	〃	23.5	83.0	—	疾和				
4月8日	〃	23.5	84.0	—	軟軟				
4月9日	〃	23.3	85.5	—	和軟				
4月10日	〃	23.3	79.5	—	和和				
4月11日	〃	24.5	78.0	2.3	軟和				
4月12日	曇	20.3	89.5	—	軟軟	二區三區撒布	二區三區五區六區撒布		
4月13日	晴	21.5	89.5	—	軟和				
4月14日	〃	21.0	89.5	—	軟和				
4月15日	曇	21.5	92.5	—	和軟				
4月16日	〃	20.5	87.0	—	和疾				
4月17日	〃	22.5	81.5	—	和和				
4月18日	晴	23.0	79.0	—	和和				
4月19日	〃	24.5	79.0	—	軟和				
4月20日	〃	24.5	72.0	—	和和				
4月21日	〃	24.0	75.5	—	和和				
4月22日	〃	25.0	78.5	—	和和				
4月23日	〃	26.0	84.0	—	和强				
4月24日	〃	25.3	74.5	—	軟强				
4月25日	〃	22.0	90.0	18.5	疾和				
4月26日	曇	20.3	94.5	—	疾疾				
4月27日	晴	24.0	85.5	—	和和				
4月28日	〃	25.8	80.5	—	和和				
4月29日	〃	25.5	78.5	—	和和				
4月30日	〃	26.5	89.0	—	軟軟				
5月1日	〃	25.0	84.5	—	和軟				

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松脂合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
5月2日	晴	26.0	81.0	—	軟和				
5月3日	〃	26.8	78.5	—	軟和				
5月4日	〃	26.3	81.0	—	和和				
5月5日	〃	26.5	80.5	8.8	和和				午後3時より雷雨あり
5月6日	〃	22.8	79.5	—	疾疾				
5月7日	〃	24.8	78.0	—	軟疾				
5月8日	〃	24.5	82.0	—	疾疾				
5月9日	雨	22.0	97.5	33.4	疾疾				
5月10日	曇	24.0	86.5	2.0	疾疾				
5月11日	雨	21.3	95.0	100.6	疾疾				
5月12日	〃	21.3	100.0	12.9	和和				

B.　昭和6年春茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松脂合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
3月26日	曇	18.8	83.5	—	軟烈	二區三區撒布	一區二區四區五區撒布		午後1時より濃霧及烈風
3月27日	〃	14.5	74.5	0.3	烈强			一區撒布	
3月28日	〃	16.0	91.0	7.4	軟疾				
3月29日	雨	15.0	97.0	1.7	軟軟				
3月30日	晴	19.3	82.5	2.7	和和				
3月31日	雨	16.5	94.0	3.2	和和				
4月1日	曇	16.3	70.0	8.4	疾疾				
4月2日	雨	15.3	100.0	54.2	軟無				
4月3日	曇	16.3	97.0	0.7	軟軟				
4月4日	晴	17.0	91.0	—	軟和	二區三區撒布	二區三區五區六區撒布	二區三區四區五區撒布	
4月5日	曇	17.0	85.5	10.0	强强				夜間降雨
4月6日	雨	13.0	93.5	26.8	强軟				
4月7日	曇	15.3	85.5	5.2	疾强				
4月8日	晴	14.8	85.0	—	疾疾				
4月9日	〃	21.0	63.0	—	疾疾				
4月10日	〃	20.8	85.5	—	軟和				
4月11日	雨	20.0	92.0	38.8	軟和				
4月12日	〃	15.3	97.0	51.3	和和				
4月13日	〃	14.5	100.0	58.0	和和				
4月14日	〃	17.3	100.0	36.7	疾軟				
4月15日	〃	17.0	100.0	177.3	軟和				
4月16日	〃	22.3	90.5	71.0	軟軟				
4月17日	〃	19.5	100.0	39.9	軟軟				
4月18日	〃	19.8	100.0	50.1	疾疾			五區撒布	
4月19日	曇	18.3	100.0	—	疾疾				
4月20日	晴	21.0	92.5	0.4	疾軟				
4月21日	〃	24.5	78.5	6.4	軟和				夜間降雨
4月22日	曇	22.0	82.5	—	和疾				
4月23日	〃	18.3	86.0	—	疾軟				
4月24日	晴	21.5	82.0	—	軟和				
4月25日	曇	22.8	92.5	—	和和				
4月26日	晴	23.5	90.5	—	軟和				
4月27日	〃	25.0	83.0	—	軟和				
4月28日	〃	25.8	84 5	—	軟和				
4月29日	〃	26.5	80.0	58.3	和和				夜間降雨
4月30日	〃	25.8	88.5	2.6	和軟				夜間降雨
5月1日	雨	22.3	94.5	7.2	軟和				
5月2日	〃	17.8	100.0	43.8	軟軟				
5月3日	晴	17.5	86.0	1.4	軟强				
5月4日	〃	24·5	89.0	0.6	和軟				正午雨
5月5日	〃	25.0	79.5	—	軟和				
5月6日	〃	25.5	82.5	0.4	軟和				
5月7日	雨	19.0	97.0	5.9	和和				
5月8日	曇	19.8	89.0	—	軟和				
5月9日	晴	21.5	87.5	—	軟軟				
5月10日	曇	24.5	84.5	—	軟和				
5月11日	雨	23.3	97.5	26.2	軟和				
5月12日	曇	18.0	91.5	1.8	軟軟				

C. 昭和5年夏茶試驗期間の氣象狀況

月日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松脂合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
5月16日	晴	26.0	82.3	—	和疾	一區二區撒布	一區二區四區五區撒布		
5月17日	〃	26.3	77.5	—	疾疾				
5月18日	〃	28.0	79.5	—	軟軟				
5月19日	〃	26.5	79.0	—	軟軟				
5月20日	〃	28.0	79.0	—	軟强				
5月21日	〃	28.0	75.0	—	軟和				
5月22日	〃	28.5	75.0	—	和强				
5月23日	〃	27.5	93.0	6.6	軟疾	二區三區撒布	二區三區五區六區撒布		午後1時より雨及雷鳴
5月24日	〃	25.5	90.5	—	和和				
5月25日	〃	26.3	77.5	0.9	軟軟				
5月26日	雨	24.3	90.5	4.0	軟和				
5月27日	曇	24.3	93.0	3.3	和和				
5月28日	雨	22.8	97.5	3.6	和和				
5月29日	曇	26.3	65.0	—	和和				
5月30日	晴	25.5	84.5	—	和疾				
5月31日	〃	25.8	80.5	—	和和				
6月1日	〃	26.3	78.0	—	軟軟				
6月2日	〃	28.0	71.8	—	疾疾				
6月3日	〃	28.0	71.5	—	疾强				
6月4日	〃	28.0	86.5	—	强强				
6月5日	〃	28.5	78.5	74.5	强强				
6月6日	雨	20.8	97.5	46.5	軟軟				
6月7日	〃	19.3	97.5	33.8	軟軟				
6月8日	〃	19.0	94.5	39.5	和强				
6月9日	〃	22.0	97.5	4.0	軟軟				
6月10日	晴	25.0	93.0	—	和和				
6月11日	〃	26.3	85.0	—	强强				
6月12日	〃	26.3	89.0	—	和强				
6月13日	〃	27.0	81.5	—	和軟				
6月14日	〃	27.0	84.0	—	和强				
6月15日	〃	27.0	81.5	—	强强				

月日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松脂合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
6月16日	雨	23.8	88.5	38.4	軟軟				
6月17日	曇	23.8	83.5	—	和和				
6月18日	晴	26.8	87.0	—	和和				
6月19日	〃	27.5	86.0	—	和和				
6月20日	〃	27.0	82.0	—	軟和				

D. 昭和6年夏茶試驗期間の氣象狀況

月日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松脂合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
5月19日	曇	23.5	90.5	—	軟軟	一區二區撒布		一區二區撒布	
5月20日	晴	25.3	93.0	—	軟疾				
5月21日	〃	28.8	73.5	—	和疾				
5月22日	〃	28.8	71.5	14.2	疾疾				
5月23日	〃	26.8	86.5	—	軟疾	二區三區撒布		二區三區四區五區撒布	
5月24日	〃	26.5	64.5	22.4	和疾				
5月25日	雨	23.0	97.5	4.6	疾强				
5月26日	晴	23.8	90.5	—	强疾				
5月27日	〃	24.8	88.5	—	和疾				
5月28日	〃	26.0	86.0	70.4	軟和		一區二區四區五區撒布		午後4時40分頃雨あり
5月29日	〃	26.8	87.5	15.5	軟和				午後4時半頃雨あり
5月30日	晴	21.8	78.5	—	軟疾			五區撒布	
5月31日	雨	24.0	90.0	62.2	軟軟				
6月1日	〃	22.3	97.5	12.9	軟軟				
6月2日	晴	23.5	87.0	—	疾和				
6月3日	〃	24.0	82.5	—	軟軟				
6月4日	〃	27.5	87.0	—	軟軟		二區三區五區六區撒布		
6月5日	〃	26.8	95.0	—	軟和				
6月6日	〃	26.0	89.0	—	軟軟				
6月7日	曇	24.5	77.0	42.1	軟和				
6月8日	晴	24.5	88.0	26.2	和軟				
6月9日	〃	24.8	74.0	—	軟和				

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松合脂劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
6月10日	晴雨	24.5	100.0	4.7	軟軟				
6月11日	雨	23.5	95.0	116.2	軟軟				
6月12日	晴	27.0	85.5	2.6	軟軟				
6月13日	〃	26.3	88.2	—	軟軟				
6月14日	晴曇	24.8	95.0	5.1	軟軟				
6月15日	曇晴	28.0	80.5	0.9	和强				
6月16日	晴	28.5	89.0	—	和强				
6月17日	〃	28.5	88.0	—	軟軟				
6月18日	〃	28.5	87.0	—	和疾				
6月19日	〃	30.0	87.5	—	和强				
6月20日	〃	28.8	95.0	—	和强				

E. 昭和5年秋茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松合脂劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
8月12日	晴	28.0	73.0	—	和和	一區 二區 撒布	一區 二區 四區 五區 撒布		
8月13日	〃	28.3	75.0	—	和軟				
8月14日	〃	27.5	76.5	—	和軟				
8月15日	曇	27.8	77.0	2.5	和和				
8月16日	晴	28.3	78.5	—	軟和				
8月17日	〃	28.8	74.5	—	和軟				
8月18日	〃	28.3	81.0	—	軟軟				
8月19日	〃	28.5	79.5	—	和和	二區 三區 撒布	二區 三區 五區 六區 撒布		
8月20日	〃	28.5	79.5	—	和軟				
8月21日	〃	27.5	79.0	—	疾疾				
8月22日	雨	28.0	93.0	5·5	疾疾				
8月23日	曇	26.0	90.5	24.0	和和				
8月24日	〃	26.8	95.5	12.5	軟軟				
8月25日	晴	27.3	91.0	9.0	和和				
8月26日	〃	27.5	82.5	—	和軟				
8月27日	〃	28.0	83.0	—	軟和				

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松合脂劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
8月28日	晴	28.0	83.5	—	軟和				
8月29日	〃	28.0	81.0	—	軟疾				
8月30日	〃	28.3	78.0	—	和軟				
8月31日	〃	27.3	75.5	—	和和				
9月1日	〃	27.0	80.0	—	疾疾				
9月2日	〃	26.3	82.5	—	和和				
9月3日	曇	27.0	82.0	0.2	和軟				午後雷雨あり
9月4日	〃	26.0	88.0		軟和				
9月5日	〃	27.8	82.5		和和				
9月6日	晴	29.5	80.0		和軟				
9月7日	〃	29.5	72.5		軟和				
9月8日	〃	28.5	79.5		和和				
9月9日	〃	27.5	77.5		和疾				
9月10日	〃	28.3	76.0		和和				
9月11日	〃	28.8	79.0		和和				
9月12日	〃	27.5	71.0		疾軟				
9月13日	曇	26.5	86.5	3.2	疾和				夜間降雨
9月14日	晴	28.0	79.5		和和				
9月15日	〃	27.8	74.5		和和				
9月16日	〃	27.0	82.5		疾和				

F. 昭和6年秋茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松合脂劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
8月27日	晴	27.5	89.0	2.8	軟和	一區 二區 撒布		一區 二區 四區 五區 撒布	
8月28日	〃	27.8	88.5	—	軟軟				
8月29日	〃	29.0	79.5	—	軟疾		一區 二區 四區 五區 撒布		
8月30日	〃	28.5	78.5	—	軟疾				
8月31日	〃	28.0	87.0	—	軟軟				
9月1日	〃	28.0	87.5	—	軟軟				

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	松脂合劑	ネオトン	デリス粉	備考
		度	%	mm					
9月2日	晴	28.0	89.0	1.4	軟軟				午後微雨あり
9月3日	〃	26.3	93.0	0.8	軟軟	二區三區撒布		二區三區五區撒布	午後3時夕立あり
9月4日	〃	28.3	84.5	0.5	軟疾				夜間降雨
9月5日	〃	27.8	87.0	—	軟疾		二區三區五區六區撒布		
9月6日	〃	26.5	88.5	7.5	軟軟				午後5時頃夕立あり
9月7日	〃	27.0	89.0	—	軟軟				
9月8日	〃	27.0	87.0	—	軟軟				
9月9日	〃	27.3	89.0	1.5	軟軟				午後11時雨
9月10日	〃	25.3	79.5	—	和軟				
9月11日	曇晴	26.5	86.0	—	和疾				
9月12日	曇	27.5	87.0	82.1	無和				
9月13日	晴	27.8	89.0	40.5	疾軟				
9月14日	〃	26.5	88.5	—	軟疾				
9月15日	曇晴	28.0	82.0	—	軟和				
9月16日	晴	27.0	85.0	—	軟軟				
9月17日	曇晴	25.5	88.5	—	和軟				
9月18日	曇晴	27.5	79.0	—	軟軟				
9月19日	晴	26.0	82.0	—	軟和				
9月20日	曇晴	24.8	87.5	2.9	和和				
9月21日	晴	26.5	86.0	—	軟軟				
9月22日	曇	22.8	92.5	—	疾疾				
9月23日	雨	26.5	86.5	31.8	強軟				
9月24日	雨晴	25.8	86.0	29.9	疾和				
9月25日	晴	26.3	89.0	—	和和				
9月26日	〃	27.5	85.0	—	軟和				
9月27日	晴曇	26.3	87.5	—	軟軟				
9月28日	晴	27.0	59.5	—	軟疾				
9月29日	雨晴	22.5	95.0	6.9	和和				
9月30日	曇	22.8	90.5	—	疾疾				

G. 昭和13年春茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風		備考
		度	%	mm			
4月4日	晴	19.3	86.5	—	和	疾	摘採3週間前撒布
4月5日	〃	21.3	78.5	—	無	和	
4月6日	〃	22.3	72.5	—	無	和	
4月7日	〃	22.5	82.0	—	無	和	
4月8日	〃	24.3	86.0	—	無	和	
4月9日	〃	23.5	92.5	6.7	無	軟	午後1時頃驟雨
4月10日	曇	17.0	97.0	—	和	和	
4月11日	晴	21.3	80.5	—	無	疾	
4月12日	〃	20.3	82.0	—	和	和	午前中曇り摘採10日前撒布
4月13日	〃	21.8	75.0	—	無	和	
4月14日	雨	21.3	87.0	5.7	和	疾	午前11時頃より雨
4月15日	〃	17.3	88.5	0.7	疾	和	時々雨
4月16日	晴	22.0	88.0	—	軟	和	
4月17日	〃	23.5	80.0	—	無	和	摘採5日前撒布
4月18日	〃	22.8	65.0	—	和	和	
4月19日	〃	22.5	73.5	84.2	和	和	午後曇り夜間降雨
4月20日	〃	24.0	89.0	16.1	和	疾	午前9時迄雨
4月21日	曇	24.0	92.5	24.3	和	和	夜間降雨
4月22日	雨	24.0	95.0	14.5	無	疾	
4月23日	〃	20.8	100.0	23.0	無	和	
4月24日	〃	20.5	100.0	20.3	和	無	
4月25日	〃	16.8	100.0	18.8	和	和	
4月26日	〃	19.3	100.0	20.3	軟	和	

H. 昭和14年春茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風		備考
		度	%	mm			
4月14日	曇	20.8	97.5	1.2	無	軟	撒布當時曇、夜間降雨摘採3週間前撒布
4月15日	〃	22.8	97.5	1.0	軟	和	夜間降雨
4月16日	〃	19.5	100.0	7.3	無	和	午前11時頃雨
4月17日	〃	18.3	97.0	24.0	軟	和	夜間降雨

月日	天氣	氣温	濕度	雨量	風		備考
		度	%	mm			
4月18日	〃	19.8	97.5	2.4	軟	和	午前10時頃まで微雨
4月19日	晴	21.8	93.0	15.8	無	和	夜間降雨、摘採10日前撒布
4月20日	曇	22.3	90.5	1.3	軟	和	夜間降雨
4月21日	雨	22.8	97.5	48.0	軟	軟	
4月22日	曇	20.0	100.0	1.4	和	和	夜間降雨
4月23日	〃	18.3	86.0	—	强	强	
4月24日	〃	18.8	83.5	0.5	疾	軟	夜間降雨
4月25日	〃	22.0	84.5	1.4	軟	軟	
4月26日	雨	19.8	100.0	50.3	軟	軟	
4月27日	晴	20.0	77.5	—	和	疾	摘採5日前撒布
4月28日	〃	20.0	82.0	6.1	軟	和	夜間降雨
4月29日	雨	20.3	97.5	54.0	無	軟	
4月30日	〃	21.3	100.0	11.4	無	和	
5月1日	曇	21.0	97.5	40.2	軟	軟	夜間降雨
5月2日	雨	19.3	100.0	9.2	軟	軟	
5月3日	〃	19.8	95.0	17.1	軟	軟	
5月4日	〃	20.8	95.0	12.1	軟	軟	
5月5日	晴	21.8	95.0	—	和	和	
5月6日	〃	24.3	93.0	—	無	和	
5月7日	〃	21.0	95.0	4.2	無	和	午後4時頃驟雨
5月8日	〃	22.3	91.0	—	和	疾	

I. 昭和13年夏茶試驗期間の氣象狀況

月日	天氣	氣温	濕度	雨量	風		備考
		度	%	mm			
5月28日	晴	27.3	87.0	1.8	無	和	午後5時頃驟雨、摘採3週間前撒布
5月29日	〃	26.3	85.0	—	無	軟	
5月30日	〃	27.3	84.5	—	無	和	
5月31日	〃	27.0	85.0	—	軟	和	
6月1日	〃	27.8	87.0	—	軟	和	
6月2日	〃	26.8	80.5	—	軟	和	
6月3日	〃	28.3	80.0	—	軟	和	

月日	天氣	氣温	濕度	雨量	風		備考
		度	%	mm			
6月4日	晴	28.0	79.0	—	軟	和	摘採10日前撒布
6月5日	〃	27.8	75.5	2.1	和	疾	午後4時頃驟雨
6月6日	〃	27.3	86.5	—	無	和	
6月7日	〃	27.5	85.0	—	無	和	
6月8日	〃	28.5	77.0	—	軟	和	
6月9日	〃	27.8	79.0	—	無	和	摘採5日前撒布
6月10日	〃	28.5	79.5	—	軟	和	午前9時頃曇り
6月11日	〃	27.8	85.0	—	軟	和	
6月12日	〃	28.3	82.5	—	軟	和	
6月13日	〃	28.8	78.5	—	軟	疾	
6月14日	〃	29.0	78.5	—	和	疾	
6月15日	〃	29.3	81.0	11.0	軟	疾	午後5時頃驟雨
6月16日	〃	28.3	82.0	0.0	軟	和	午後5時頃驟雨
6月17日	〃	27.8	79.0	—	軟	軟	
6月18日	〃	27.3	91.0	—	軟	和	
6月19日	〃	29.5	79.0	—	軟	疾	
6月20日	〃	29.0	79.0	—	軟	和	
6月21日	〃	28.8	79.0	—	軟	疾	

J. 昭和14年夏茶試驗期間の氣象狀況

月日	天氣	氣温	濕度	雨量	風		備考
		度	%	mm			
6月1日	晴	23.8	93.0	—	軟	和	摘採3週間前撒布
6月2日	〃	23.0	94.5	—	無	和	
6月3日	雨	22.0	95.0	15.5	軟	軟	
6月4日	曇	24.0	93.0	—	無	和	
6月5日	晴	25.3	95.0	—	軟	和	摘採10日前撒布
6月6日	〃	25.8	93.0	—	軟	和	
6月7日	〃	26.5	85.0	—	無	疾	
6月8日	曇	26.8	91.0	—	無	疾	
6月9日	雨	24.3	100.0	97.5	軟	軟	
6月10日	〃	25.3	90.0	5.3	和	和	

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	備考
		度	%	mm		
6月11日	雨	26.8	100.0	5.8	和　強	
6月12日	〃	22.8	100.0	14.1	無　軟	
6月13日	〃	22.8	100.0	50.0	軟　軟	
6月14日	〃	23.0	100.0	14.9	和　軟	
6月15日	曇	27.8	80.5	—	軟　和	摘採5日前撒布
6月16日	〃	28.0	87.0	—	疾　強	
6月17日	雨	26.5	100.0	55.3	強　疾	
6月18日	〃	23.8	100.0	66.7	軟　和	
6月19日	〃	24.3	95.0	20.4	無　和	
6月20日	晴	26.8	84.0	—	和　強	
6月21日	〃	28.0	81.0	—	和　和	
6月22日	〃	27.3	85.5	—	無　疾	
6月23日	〃	28.0	82.0	—	和　和	
6月24日	〃	29.0	80.0	—	和　和	
6月25日	〃	27.5	85.5	—	疾　疾	
6月26日	〃	27.0	73.5	—	和　疾	
6月27日	〃	28.5	72.5	—	強　強	
6月28日	〃	29.3	69.5	—	強　強	
6月29日	〃	28.5	70.5	—	疾　疾	
6月30日	〃	27.5	79.5	—	和　疾	
7月1日	〃	27.8	77.5	—	軟　和	
7月2日	〃	29.5	76.0	—	無　疾	
7月3日	〃	29.5	77.0	—	軟　疾	

K.　昭和13年秋茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	備考
		度	%	mm		
8月8日	晴	26.5	100.0	—	無　軟	摘採3週間前撒布
8月9日	〃	26.5	100.0	2.2	無　軟	夜間降雨(驟雨)
8月10日	〃	26.8	100.0	—	無　和	
8月11日	〃	28.0	87.5	—	無　和	
8月12日	〃	28.8	81.0	0.0	無　軟	午前10時頃より時々曇り正午驟雨

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	備考
		度	%	mm		
8月13日	〃	28.8	100.0	1.5	無　和	夜間降雨
8月14日	曇	26.5	91.5	1.0	無　軟	時々微雨
8月15日	晴	28.0	97.5	—	無　和	時々曇り
8月16日	〃	29.0	100.0	—	軟　和	
8月17日	〃	27.8	97.5	0.3	無　疾	午後6時頃驟雨
8月18日	〃	28.0	97.5	4.0	無　疾	午後5時頃驟雨摘採10日前撒布
8月19日	〃	25.8	97.5	1.5	無　軟	午後4時頃驟雨
8月20日	〃	27.5	87.5	—	軟　和	
8月21日	〃	29.0	93.0	—	無　強	
8月22日	〃	27.0	100.0	—	無　和	
8月23日	〃	29.5	100.0	--	無　和	摘採5日前撒布
8月24日	〃	28.8	78.5	—	軟　和	
8月25日	〃	27.3	91.0	3.1	無　和	午前10時頃雨
8月26日	〃	26.5	91.0	—	無　和	
8月27日	〃	26.3	84.0	0.0	無　和	午後1時頃驟雨
8月28日	〃	27.8	84.5	1.5	無　疾	午後8時頃驟雨あり
8月29日	〃	26.8	83.0	—	無　和	午後3時頃雷鳴あり
8月30日	曇	26.5	88.5	65.3	無　軟	午後6時頃驟雨あり
8月31日	晴	26.5	91.5	0.7	無　和	夜間降雨
9月1日	〃	27.5	86.5	—	無　和	
9月2日	〃	28.3	82.5	—	無　和	
9月3日	〃	28.0	91.0	9.9	無　和	夜間降雨及雷鳴あり
9月4日	曇	27.5	91.0	—	軟　疾	
9月5日	晴	27.5	97.5	—	無　和	
9月6日	曇	27.5	82.5	—	無　軟	
9月7日	晴	26.5	81.5	—	無　和	

L.　昭和14年秋茶試驗期間の氣象狀況

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	備考
		度	%	mm		
8月23日	晴	27.8	85.0	—	軟　疾	摘採3週間前撒布
8月24日	〃	29.3	84.5	—	軟　和	

月　日	天氣	氣溫	濕度	雨量	風	備考
		度	%	mm		
8月25日	〃	28.8	82.0	—	軟　和	
8月26日	晴	29.8	84.0	4.9	無　和	夜間降雨
8月27日	雨	27.0	91.0	2.3	無　和	
8月28日	晴	27.8	71.5	—	軟　和	
8月29日	〃	28.8	81.0	—	和　疾	
8月30日	〃	28.8	79.5	—	和　和	
8月31日	〃	28.0	82.5	—	無　和	
9月1日	〃	28.3	86.0	—	無　軟	
9月2日	曇	26.8	88.5	10.9	無　軟	夜間降雨
9月3日	微雨	26.8	91.5	1.7	無　軟	
9月4日	曇	27.8	89.0	0.3	無　軟	夜間降雨
9月5日	〃	27.0	89.5	0.1	軟　軟	
9月6日	晴	27.3	84.5	—	軟　軟	摘採10日前撒布
9月7日	〃	28.5	84.0	0.1	無　和	夜間降雨
9月8日	〃	23.5	83.0	48.1	無　疾	夜間降雨
9月9日	雨	22.5	100.0	18.4	和　軟	
9月10日	晴	24.8	86.5	—	無　和	
9月11日	〃	25.5	87.5	—	無　軟	摘採5日前撒布
9月12日	〃	27.3	89.0	—	無　和	
9月13日	〃	26.0	93.5	—	無　軟	
9月14日	〃	26.3	90.0	—	無　軟	
9月15日	〃	25.5	89.0	5.2	無　軟	午後4時頃雷鳴及驟雨
9月16日	〃	26.8	87.5	0.1	無　軟	午後4時頃雷鳴及驟雨
9月17日	〃	26.0	89.0	—	無　軟	
9月18日	〃	27.3	91.5	—	無　軟	
9月19日	〃	27.8	86.5	—	和　和	
9月20日	曇	23.5	95.0	3.8	無　軟	午前12時頃より降雨あり
9月21日	晴	24.5	89.0	—	無　疾	

昭和十六年十二月二十五日印刷
昭和十六年十二月二十九日發行

臺灣總督府農業試驗所

印刷者　逢坂增治郎
臺北市建成町四丁目一番地

印刷所　盛進商事株式會社
臺北市建成町四丁目一番地